Bouquet

使用の手びき

型式：Computer 9700 super DX

SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

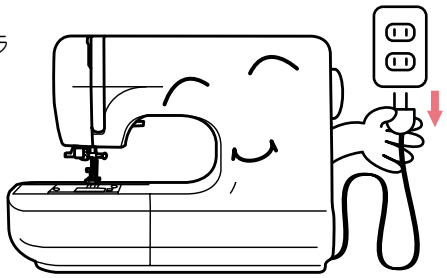
このたびはシンガーミシンをお買いあげいただきましてありがとうございます。
このミシンは、高性能で非常に使いやすく出来ております。
また、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、装飾模様や文字ぬい、ボタンホールぬいなどが簡単にぬえる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書とともに大切に保管してください。
このミシンは、日本製です。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

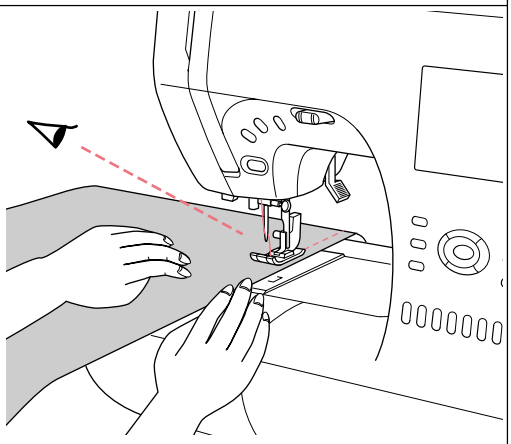
⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   ・ミシンのそばを離れるとき。
   ・ミシンを使用したあと。
   ・ミシン使用中に停電したとき。



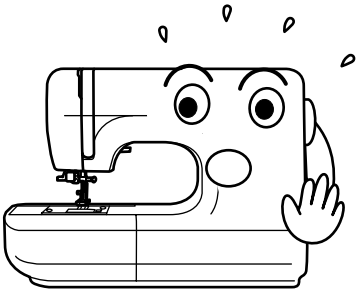
⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

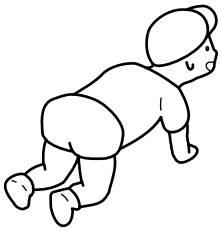
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。



シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

3. 曲がった針はご使用にならないでください。
4. 裁縫中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
5. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

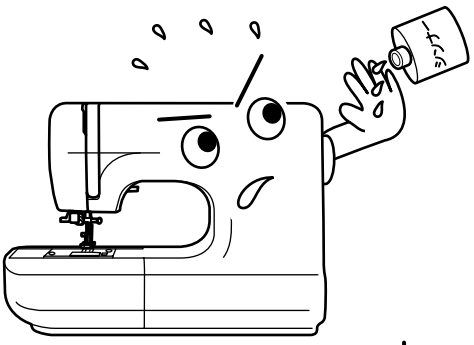




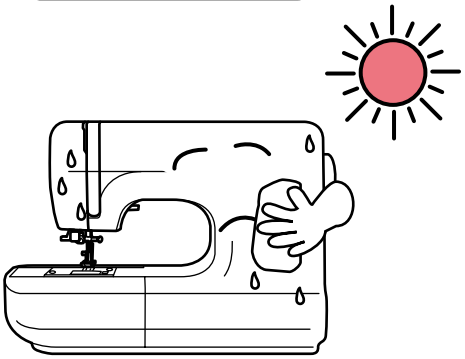
6. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
   - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
   - ・ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - ・「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
   - ・原則として上糸、下糸を交換するとき。
7. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または「お客様相談係」（裏表紙参照）にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。
   - ・正常に作動しないとき。
   - ・落下などにより破損したとき。
   - ・水に濡れたとき。
   - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - ・異常な臭い、音がするとき。
8. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

ミシンの取り扱い

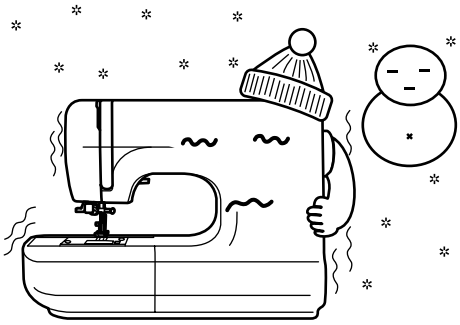
- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
  汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
  時間がたてば正常に作動するようになります。
  保管は、なるべく寒いところをさけてください。

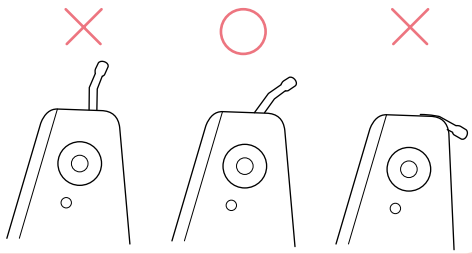


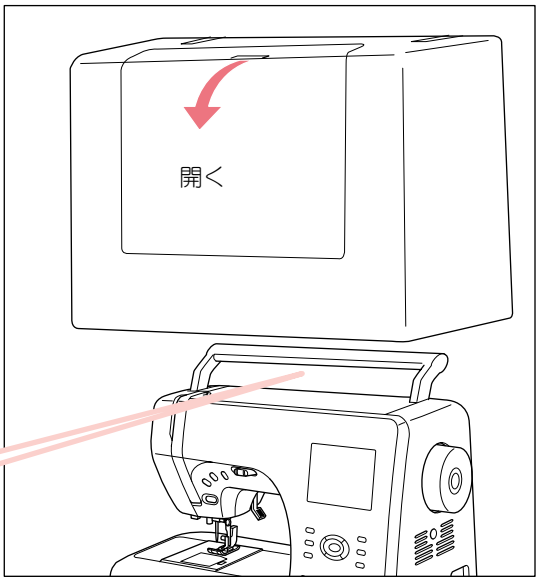
ミシンカバー

ミシンカバーの扉を開くと、この手びきがしまえるようになっています。

ミシンカバーをふくときは、きれいなやわらかい布をお使いください。

ミシンカバーは、ミシンのハンドルを少し斜めにしてかぶせます。





もくじ

始めに

安全にご使用いただくために .. 表紙裏
ミシンの取り扱い 2
ミシンカバー 2

各部の名称とはたらき

各部の名称 4
補助テーブル・付属品 6
　補助テーブルのはずし方 6
　補助テーブルのあけ方 6
　付属品 6
針の取りかえ方 7
押えの取りかえ方 7
電源の入れ方 8
　お知らせ画面が見にくいときは 9
コントローラーのご案内（別売り） 9
各部のはたらき 10
　スタート・ストップボタン 10
　返しぬいボタン 10
　針上下ボタン 10
　糸切りボタン 10
　押え上げレバー 10
　スピード調節つまみ 10
　使い方ボタン 11

ぬい模様の選び方（基本ぬい・実用ぬい）

ぬい模様の選び方
　（基本ぬい・実用ぬい） 12
　基本ぬいの選び方 12
　実用ぬいの選び方 12
　ぬい目の幅と長さの調節 13
　使用押えの表示 13

上糸・下糸の準備

下糸の準備 14
　ボビンの取り出し方 14
　下糸の巻き方 14
　ボビンの入れ方 15
上糸の準備 16
　上糸のかけ方 16
　糸通しの使い方 17
　下糸の引き上げ方 17

ぬってみましょう

ぬってみましょう 18
　ぬい始め～ぬい終わり 18
　返しぬい 19
　ぬい方向のかえ方 19
　厚地のぬい始め 19
　段ぬい 19
自動糸調子 20
糸と針の選び方 21

いろいろなぬい方

地ぬい（直線ぬい） 22
　自動返しぬい付直線ぬい 22
伸縮ぬい 22
ジグザグぬい 23
伸縮強化ぬい 23
つくろいぬい（点線ジグザグぬい） 23
ふちかがりぬい（たち目かがり） . 24
まつりぬい（ブラインドステッチ） 25
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）26
　つき合わせ 26
　脇あき 27
パッチワーク 28
クロスステッチ 28
かざりぬい 28
アップリケ 29
スカラップ 29
ボタンホールぬい 30
フリーアームぬい 31

模様・文字ぬい

模様・文字ぬい 32
　模様・文字の選び方 32
　密着ぬい 34
　模様・文字の取り消し 34
　模様・文字の確認 35
　模様・文字の呼び出し 35
模様・文字のぬい方 36
　例 37

ミシンのお手入れ

ぬい目の形の調整 39
仕様 39
ミシンのお手入れ 40
　ランプの交換 40
　かまと送り歯の掃除 41
お知らせメッセージ 42
不調の原因と処置 43

ぬい模様一覧 修理サービス

ぬい模様一覧 44
修理サービス要領 ..... 裏表紙

各部の名称

トップカバー（5ページ）
ハンドル
天びん（16ページ）
面板・ランプ（40ページ）
スピード調節つまみ（10ページ）
糸切りボタン（10ページ）
針上下ボタン（10ページ）
返しぬいボタン（10ページ）
はずみ車
電源スイッチ（8ページ）
スタート・ストップボタン（10ページ）
コントローラージャック（9ページ）
補助テーブル（6ページ）
押え上げレバー（10ページ）
電源プラグ（8ページ）
電源コード（8ページ）

糸切り（18ページ）
ボタンホールレバー（30ページ）
糸通し（17ページ）
糸通しレバー（17ページ）
押えホルダー（7ページ）
押え取りはずしボタン（7ページ）
押えホルダー止めネジ
針止めネジ（7ページ）
針棒糸かけ（16ページ）
針（7ページ）
押え（7ページ）
針板（41ページ）
ボビンカバー（14ページ）
ボビンカバー解放レバー（14ページ）
バランス調整ネジ（39ページ）

お知らせ画面
（8, 9ページ）

「選択」ボタン
（11-13, 20, 33-35ページ）

「決定」ボタン
（11-13, 20, 33-35ページ）

「実用」ボタン
（12ページ）

「模様・文字」ボタン（32ページ）

「使い方」ボタン（11ページ）

「基本ぬい」ボタン（12ページ）

実用
模様・文字
使い方
決定
クリア
メモリー確認
幅・長さ、糸調子
基本ぬい

「クリア」ボタン
（11, 13, 20, 34ページ）

「メモリー確認」ボタン（35ページ）

「幅・長さ、糸調子」ボタン
（13, 20, 34ページ）

●トップカバーの開け方

トップカバーの右下をかるく押すと、カバーが少し浮き上がります。
閉めるときも、カチッと音がするまでかるく押し込んでください。

●トップカバー内部

ぬい模様一覧表
（11-12, 32, 44ページ）

糸かけ
（14, 16ページ）

糸巻き案内
（14ページ）

糸調子装置
（16ページ）

糸立て棒
（14, 16ページ）

輝度調節ダイヤル
（9ページ）

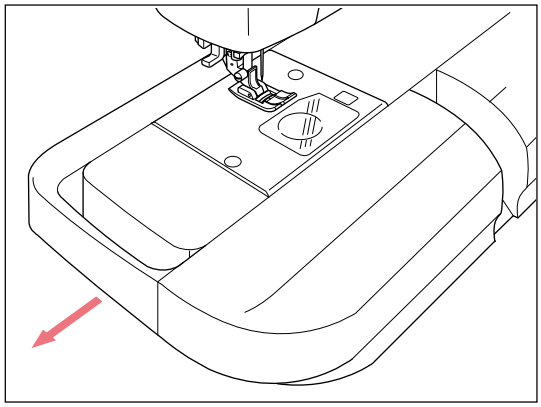
フェルト
（14, 16ページ）

糸巻き軸
（14ページ）

ボビン押え
（14ページ）

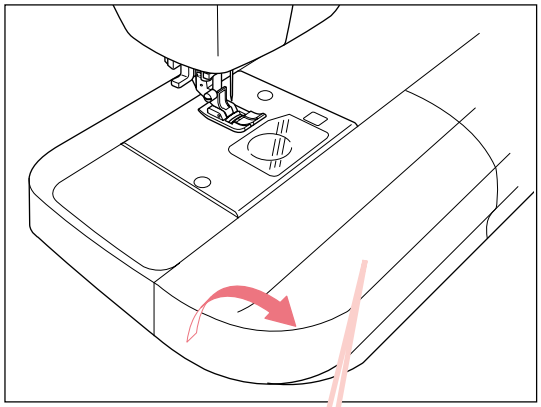
●補助テーブルのはずし方

補助テーブル左下のみぞに指をかけ、
左に引きます。



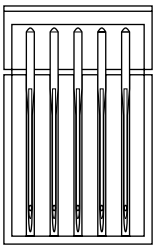
●補助テーブルのあけ方

補助テーブルの左側に指をかけ、
上に引き上げます。

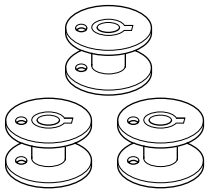


●付属品

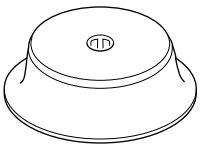
付属品は、補助テーブルの中に入っています。



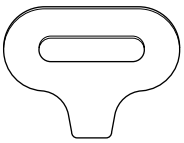
針ケース（5本入）
11番、14番、16番と
ニット針（黄色）11番、14番各1本



ボビン



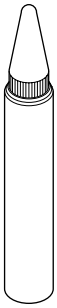
糸巻き押え



針板用ドライバー

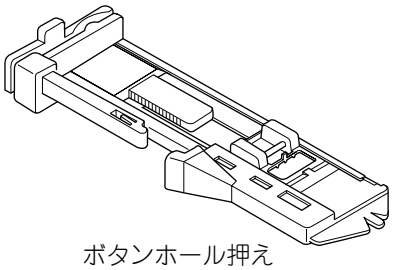
ドライバー

シームリッパー



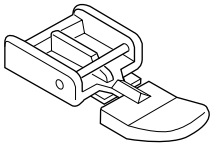
油差し

ブラシ

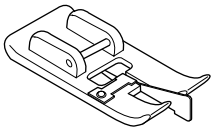


ボタンホール押え

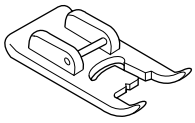
●押え



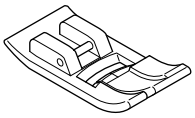
ファスナー押え



ふちかがり押え



サテン押え



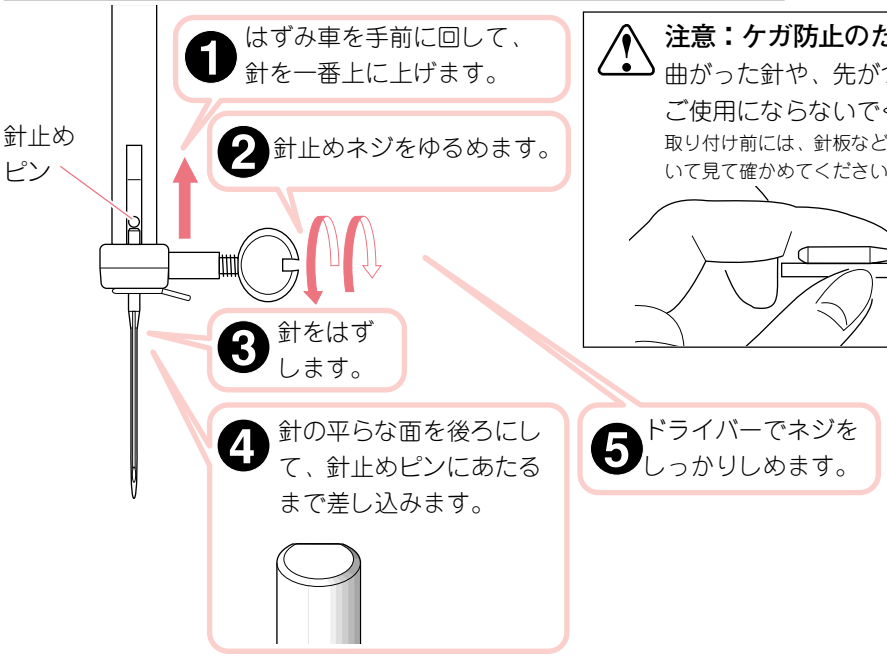
ジグザグ押え
この押えは、ミシンについています。

針の取りかえ方

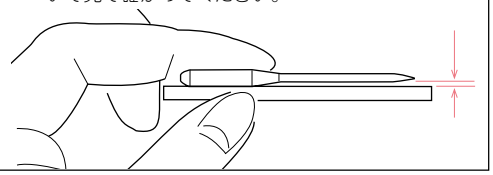
針は、布地や糸に合わせて選びます。「糸と針の選び方」（21ページ）を参照ください。

- 針板の上に紙や布をしいておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

注意：ケガ防止のために；
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



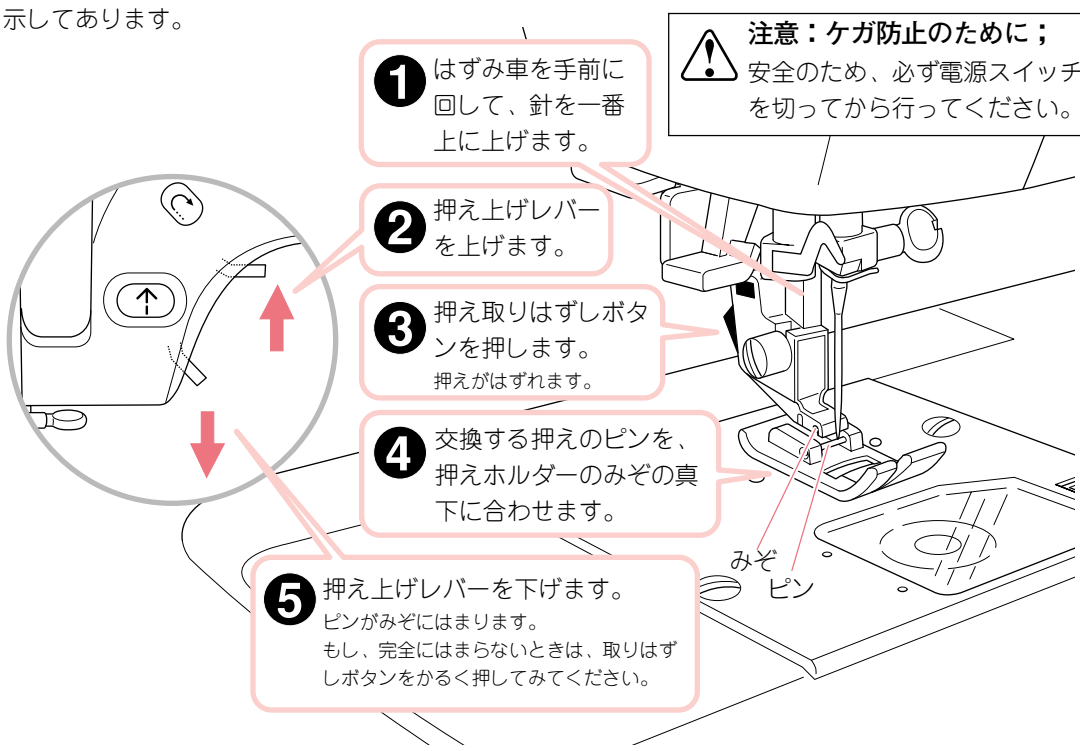
注意：ケガ防止のために；
曲がった針や、先がつぶれている針は、ご使用にならないでください。
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいて見て確かめてください。



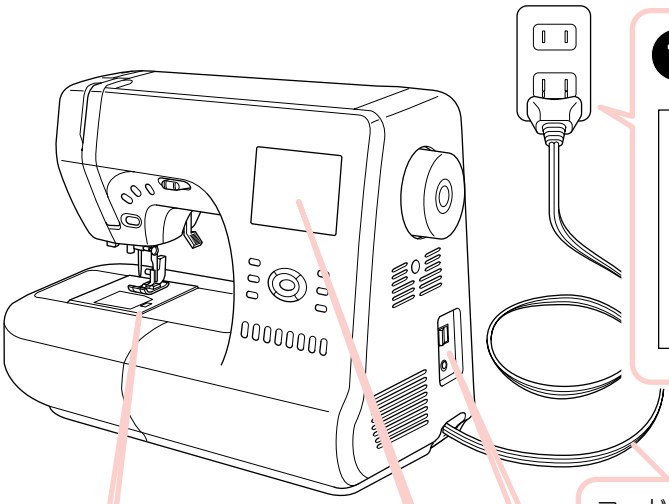
押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬい方に適した押えが22ページ以降に示してあります。

注意：ケガ防止のために；
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



電源の入れ方



❶ 電源プラグを引き出し、室内の電源コンセントに差し込みます。

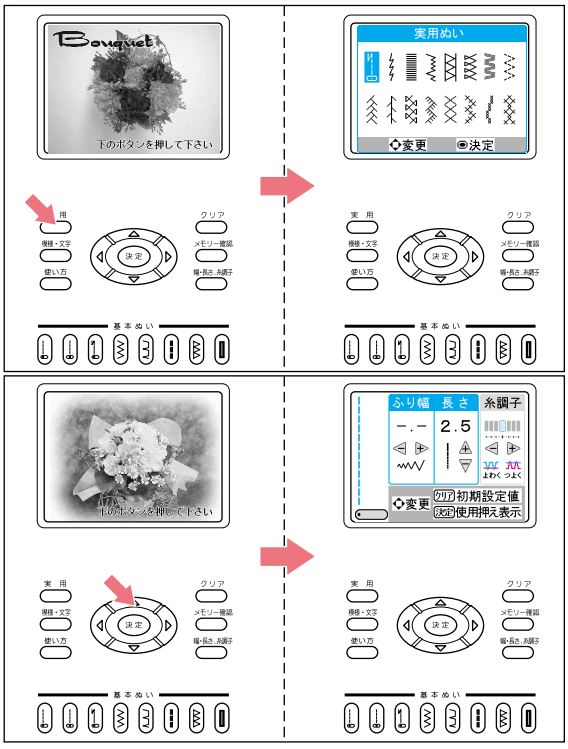
警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

コードをしまうときは、コードを少し引っ張ってはなせば自動的に巻き込まれます。

❷ 電源スイッチの手前側（●マークのある方）を押すと電源が入ります。

❸ 電源を入れるとランプが点灯し、ぬいの手元を明るく照らします。

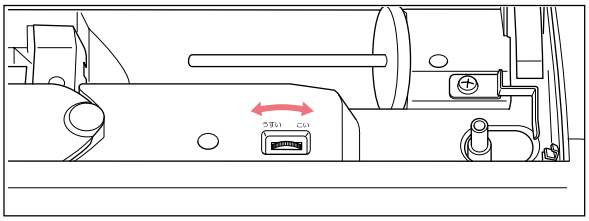
❹ お知らせ画面には、オープニング画面が表示されます。
（オープニング画面は、電源を入れるたびに表示内容が変わります。）
お知らせ画面の下にある、いずれかのボタンを押してください。
「実用」「模様・文字」「基本ぬい」ボタンを押すと、そのボタンの機能に応じた最初の画面に切りかわります。
その他のボタンを押すと、自動的に地ぬい（左）を選択します。



警告：事故防止のために；
ミシンを使わないときやお手入れの際は、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。

●お知らせ画面が見にくいときは

トップカバー内部の輝度調節ダイヤルを回して、濃さを調節してください。

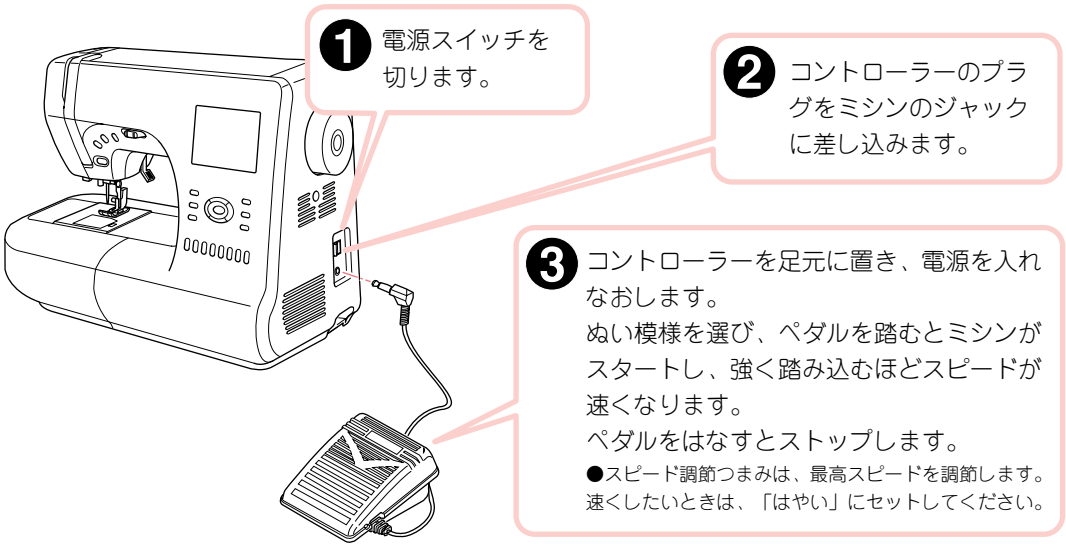


ご注意：

お知らせ画面は、強く押したりしないでください。強く押すと、表示が乱れたり、故障の原因にもなります。

コントローラーのご案内（別売り）

別売りのコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン（次ページ参照）はきかなくなります。



●コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。
●お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠	**警告：感電、火災を防ぐために；** コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないでください。
⚠	**注意：ケガ防止のために；** コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン

このボタンを一度押すとスタートし、もう一度押すとストップします。
ぬい始めは、ゆっくり回ります。

●お知らせランプ

緑の点灯 .... スタートできます。
赤の点灯 .... スタートしません。

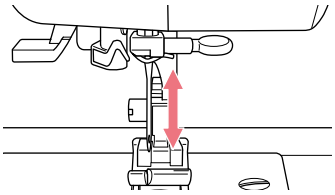
赤ランプのときにこのボタンを押しても、ミシンはスタートしません。
また、ランプが緑でも上糸が正しくかけられていなかったり、なくなったときには、安全装置が働いて数回転して停止します。糸を正しくかけ直してください。

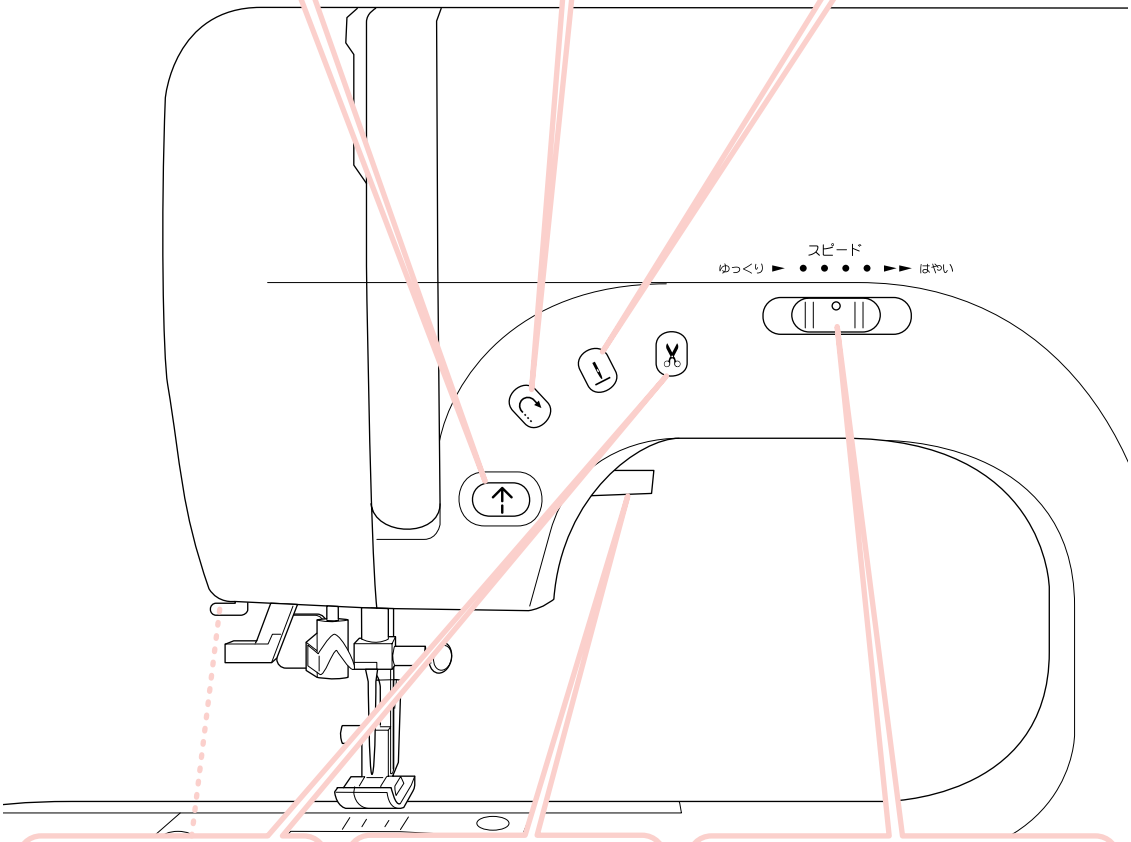
●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。
ボタンをはなすと止まります。

●針上下ボタン

このボタンを押すたびに針の位置が上下に切りかわります。
上位置から続けて 2 回押すと 1 針ぬいになります。





●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタン押すと、上糸と下糸を同時に切ります。

＊30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。これらの糸を切る場合には、ミシン左側の糸切りをお使いください。（18ページ参照）

●押え上げレバー

このレバーで押えの上げ下げをします。
押えが上がっているときは、お知らせランプが赤く点灯し、ミシンはスタートしません。（下糸巻きを除く）

●スピード調節つまみ

このつまみを右に動かせば、だんだん速く、左に動かすとゆっくりになります。

注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

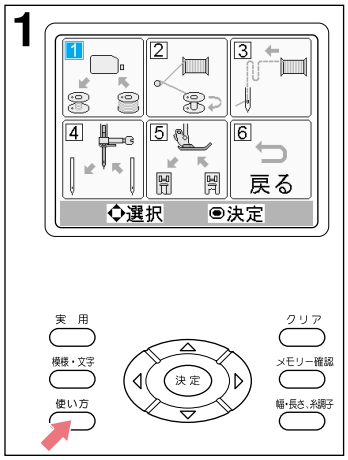
●使い方ボタン

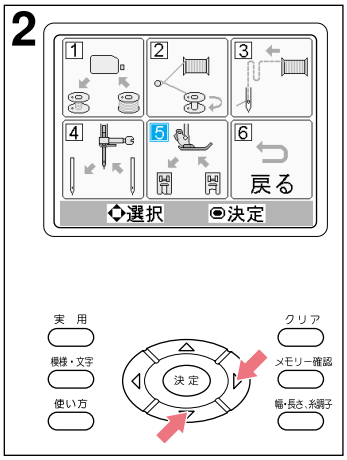
このボタンを押すことによってミシンの基本的な使い方をイラストで知ることができます。

1 「使い方」ボタンを押します。
使い方のメニューが表示されます。

1. ボビンのセット（取り出し方、入れ方）
2. 下糸の巻き方
3. 上糸のかけ方
4. 針の取りかえ方
5. 押えの取りかえ方
6. 前の画面に戻る

メニュー項目はトップカバー内側のぬい模様一覧にも表示されています。

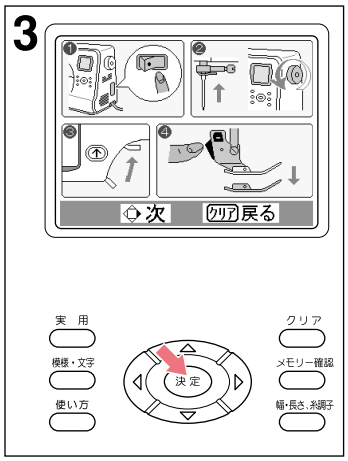


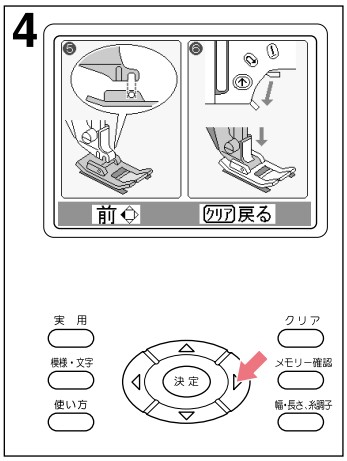


2 「選択」ボタンの上下左右を押して、項目を選びます。
選ばれた項目の番号が青く反転します。

3 「決定」ボタンを押します。
その項目の最初のページが表示されます。

4 「選択」ボタンの右側を押すと、次のページに変わります。
左側を押すと、前のページに戻ります。
ページが無いときは、ピピピッとなってお知らせします。

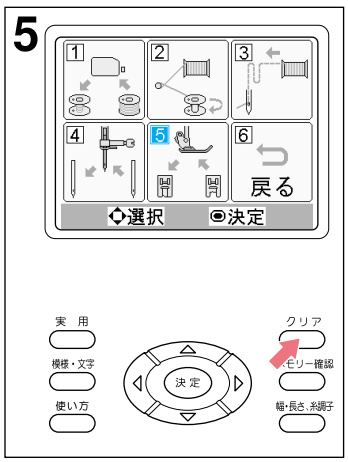


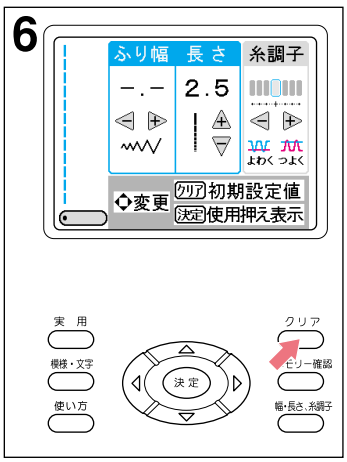


5 「クリア」ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

6 もう一度「クリア」ボタンを押すか、項目6を選んで「決定」ボタンを押すと、「使い方」ボタンを押す前の画面に戻ります。

● 「使い方」を表示しているときは、お知らせランプが赤になり、ミシンは、スタートしません。



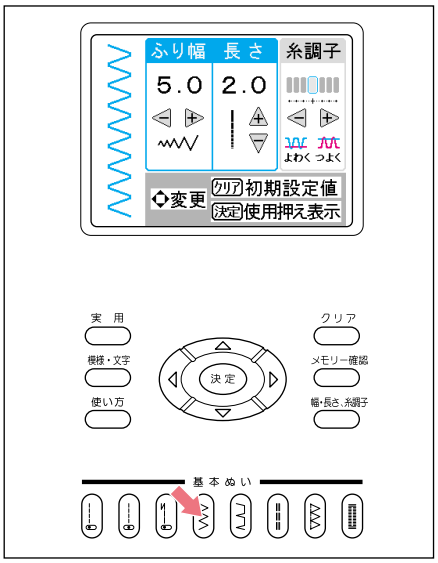


ぬい模様の選び方（基本ぬい・実用ぬい）

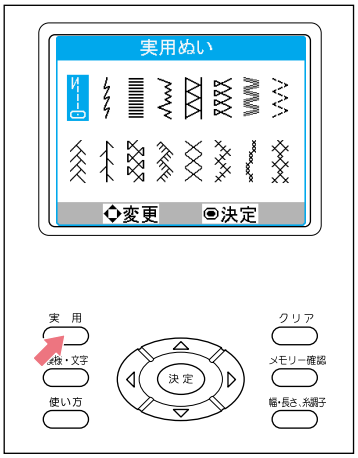
このミシンでぬえるぬい模様が、トップカバーの内側と、この手びきの44ページ「ぬい模様一覧」に表示してあります。
ぬい模様はそれぞれ、基本ぬい、実用ぬい、模様・文字ぬいの３つに分けられます。
ここでは、基本ぬい、実用ぬいの選び方を説明します。
模様・文字ぬいの選び方は、32〜38ページを参照してください。

●基本ぬいの選び方

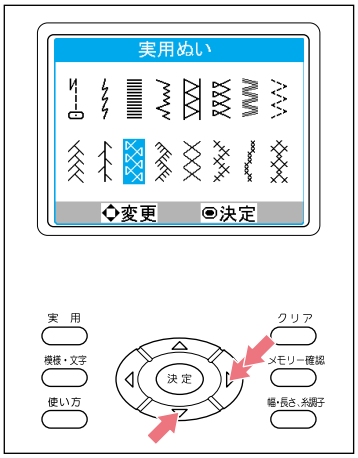
ぬいたい基本ぬいのボタンを押します。
選んだ基本ぬいが表示されます。



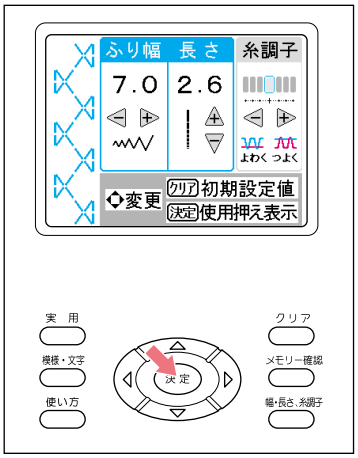
●実用ぬいの選び方



1 「実用」ボタンを押します。
実用ぬいの一覧が表示されます。



2 「選択」ボタンの上下左右を押して、ぬいたい実用ぬいを選びます。
選ばれたぬい模様は、青く反転表示されます。

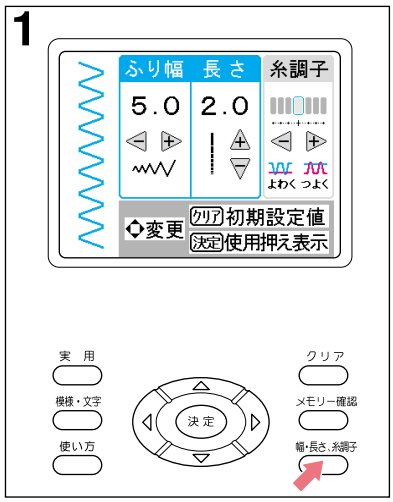


3 「決定」ボタンを押します。
選んだ実用ぬいが表示されます。

お知らせ：
実用ぬい一覧の画面で、「決定」ボタンを押さずにぬいをスタートさせると、ミシンは、そのとき反転しているぬい模様が「決定」されたと判断して、そのぬい模様の画面に切りかわり、ぬいをスタートさせます。

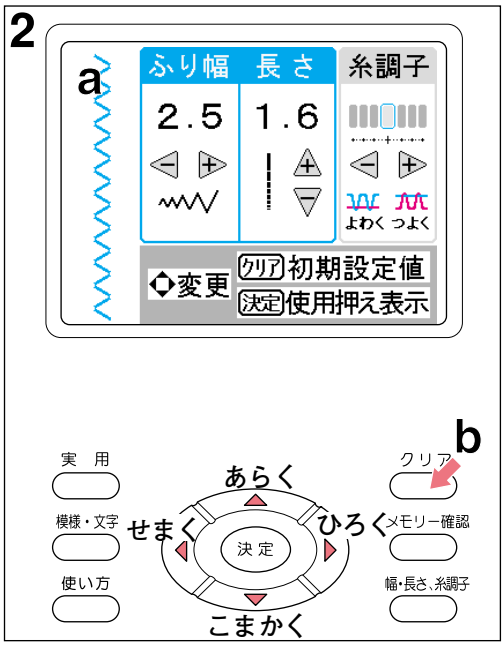
●ぬい目の幅と長さの調節

ぬい模様を選ぶと、あらかじめ設定されたぬい目の幅（ふり幅）と長さが選ばれ、その数値がお知らせ画面に表示されます。（数値表示のない幅、長さは、設定値から変えられません。）



1 ぬい目の幅と長さを変えるには、まず、画面の「ふり幅・長さ」を囲んでいる枠が青くなっているか確認してください。
「糸調子」が青くなっている場合は、「幅・長さ、糸調子」ボタンを1回押してください。
ボタンを押すたびに切りかわります。

2 「選択」ボタンで調節します。
ぬい目の幅を変えるには；
ひろくするには、ボタンの右側を押します。
せまくするには、ボタンの左側を押します。
ぬい目の長さを変えるには；
あらくするには、ボタンの上側を押します。
こまかくするには、ボタンの下側を押します。



a ぬい目の幅、長さに合わせて、画面左側のぬい模様の形が変わります。

b 「クリア」ボタンを押せば設定値に戻すことができます。（このとき、糸調子も設定値=自動に戻ります。20ページ参照）

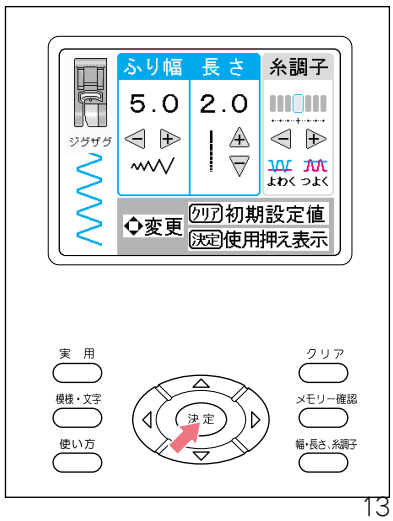
- 最大値、最小値になると、ピピピッとなってお知らせします。
- ぬいながら幅や長さを変えることができます。（画面のぬい模様はぬいを止めたときに変わります。）

●使用押えの表示

「決定」ボタンを押します。
選んだぬい模様に適した押えが表示されます。

もう一度「決定」ボタンを押すもとの画面に戻ります。

押えを表示したままスタートさせると、もとの画面に戻ると同時にぬいをスタートします。

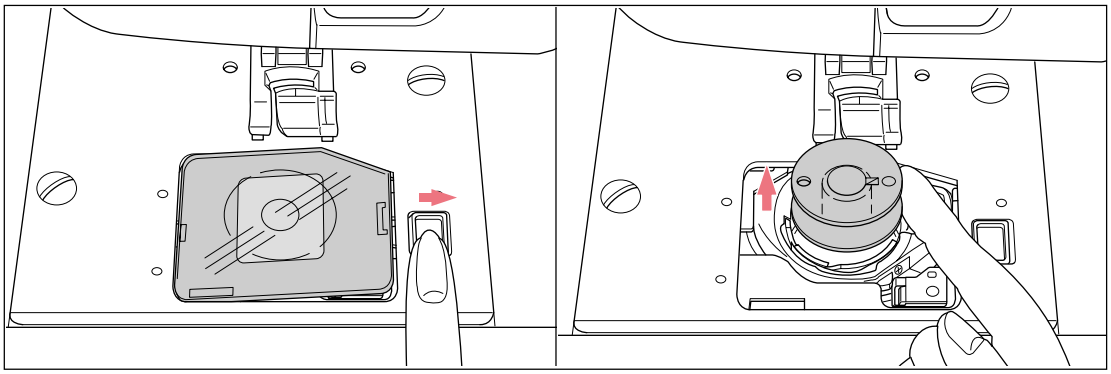


下糸の準備

●ボビンの取り出し方

1 ボビンカバー解放レバーを右に引いて、ボビンカバーを取りはずします。

2 ボビンを取り出します。



●下糸の巻き方

番号順に行います。

❶ 押え上げレバーを上げます。

❷ トップカバーを開けます。

❸ 糸立て棒に糸巻きを入れ、糸巻き押えを差し込みます。

糸巻きに切りみぞがある場合は右にセットします。

差し込む　切りみぞ　フェルト

❹ ミシン本体についている①～③の順番で糸をかけます。

① 糸かけにかけます。

両手でしっかりかけます。

② 下糸巻き案内にかけます。

中までしっかり巻きつけてください。

③ ボビンの穴に糸を通します。ボビンを下糸巻き軸に差し込み、右へ押しつけます。

❺ 糸はしを持ちながら、ミシンをスタートさせます。

スピードをゆっくりに調節します。

❻ 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。

❼ もう一度スタートさせます。

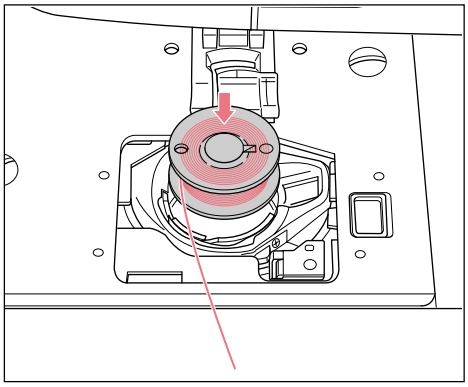
スピードを調節します。

❽ 糸がボビン押えにあたるまで巻かれて、回らなくなったら、ミシンをストップさせます。

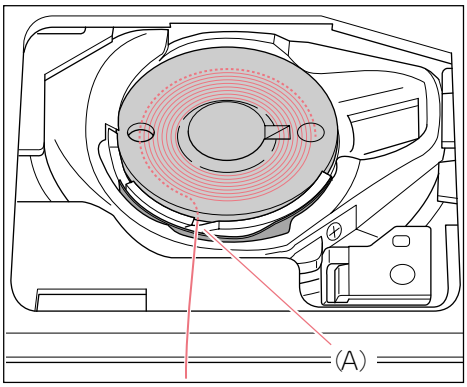
❾ 糸を切り、下糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずします。

●ボビンの入れ方

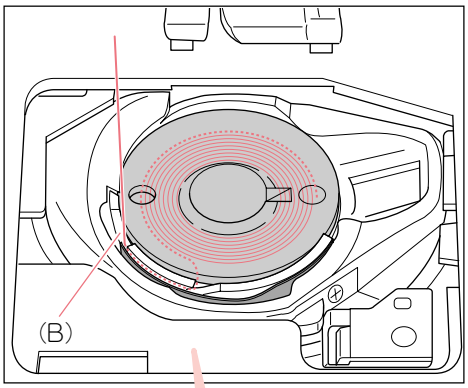
1 糸が図のような方向から出るようにして、ボビンを入れます。

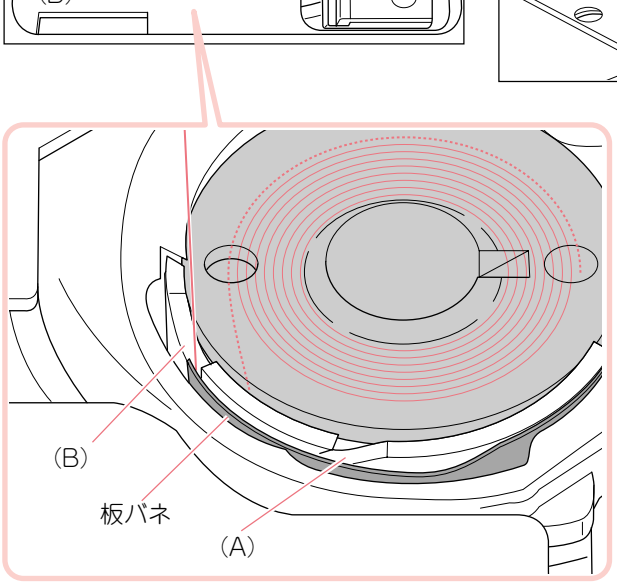


2 糸を手前のみぞ（A）にかけます。

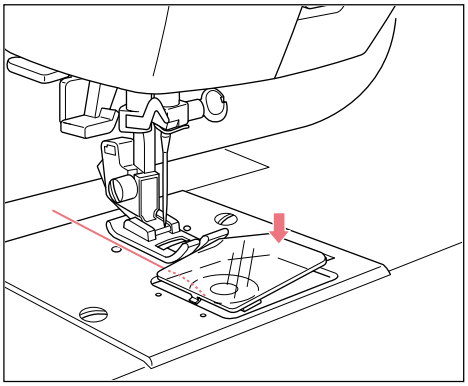


3 糸をみぞにかけたまま左に引き、板バネの内側を通るようにして、みぞ（B）にかけます。





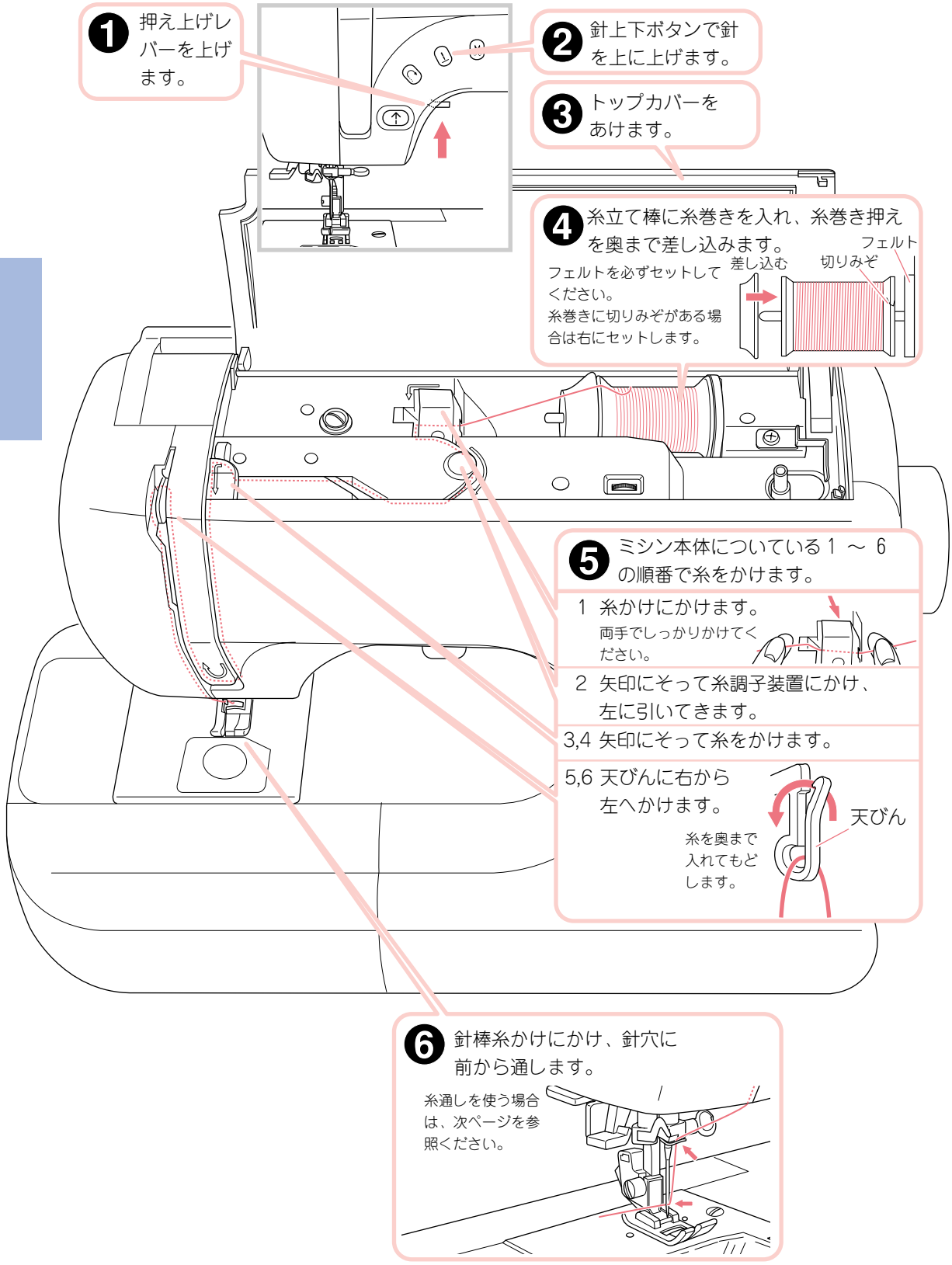
4 糸を10cmくらい引き出します。ボビンカバーの左側のツメを針板のみぞに合わせ、右側をかるく押して、カバーを取り付けます。



お知らせ：
ボビンは、専用のものをお使いください。

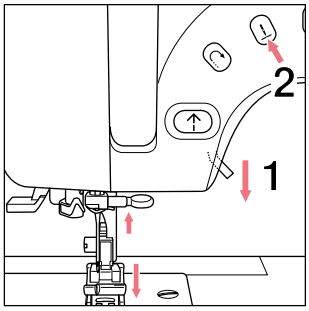
●上糸のかけ方

番号順に正しくかけてください。



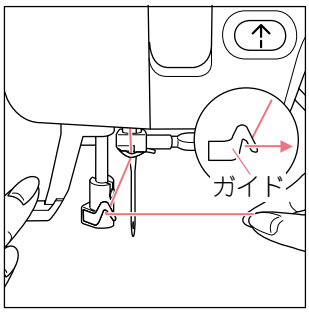
●糸通しの使い方

1 押えを下げます。
2 針上下ボタンで針を上げます。



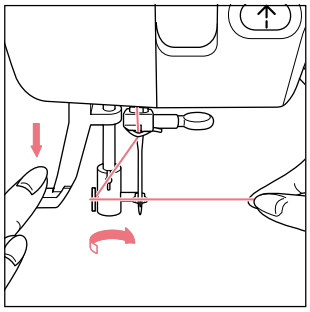
・針は11、14、16番が使えます。

3 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右に引いてきます。



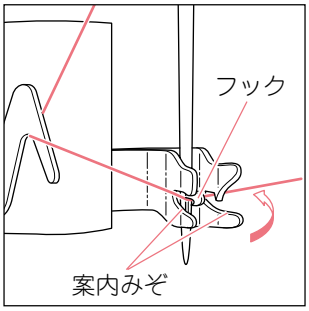
注意：ケガ防止のために；
ミシンが動いているときに糸通しレバーは下げないでください。

4 レバーをいっぱいに下げます。



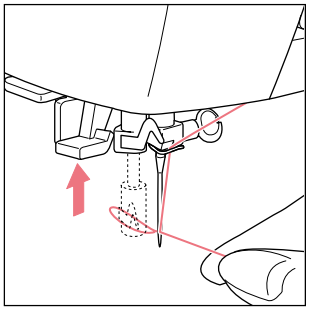
糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

5 糸を案内みぞの奥まで入れます。



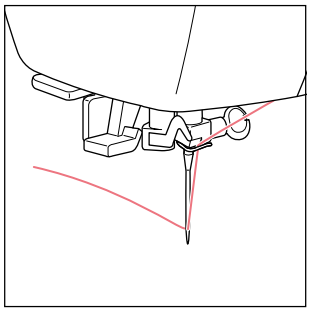
糸がフックに引っかかります。

6 糸をかるく持ってレバーをはなします。



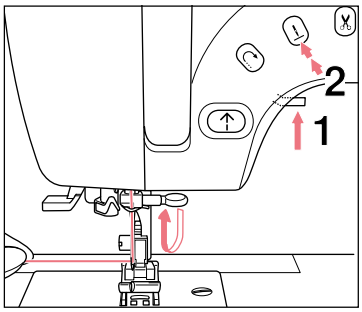
フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

7 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。



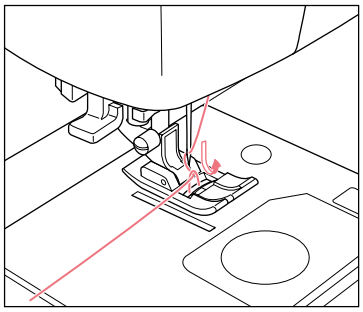
●下糸の引き上げ方

1 押えを上げます。
2 上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを2回続けて押します。

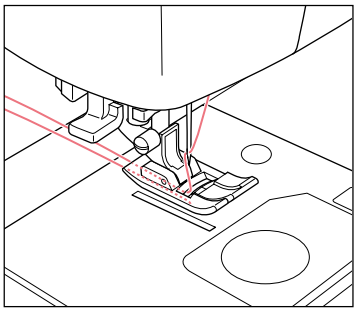


はずみ車が手前に1回転します。

3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。



4 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。



ぬってみましょう

地ぬい（左）をぬってみましょう。

●ぬい始め〜ぬい終わり

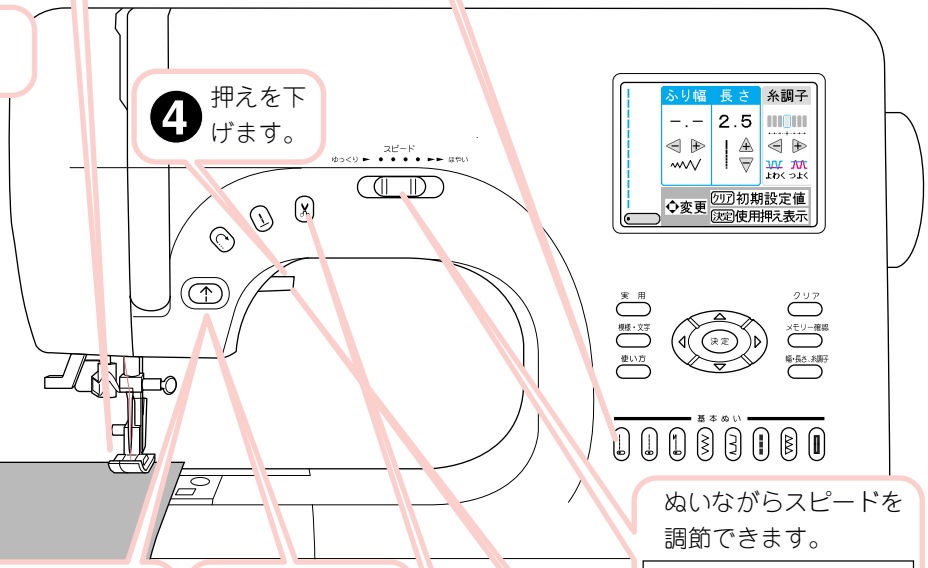
安全装置：
このミシンは、押えを上げたままではスタートしないようになっています。
また、ぬいの途中で上糸が切れたり、無くなった場合には、自動的に停止します。

❶ 地ぬい（左）を選びます。

❷ 押えを確かめます。（ジグザグ押え）
押えの取りかえ方は7ページを参照ください。

❸ 布地を入れます。

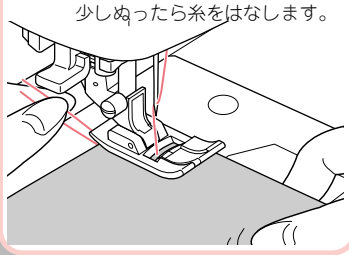
❹ 押えを下げます。



ぬいながらスピードを調節できます。

注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

❺ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
少しぬったら糸をはなします。



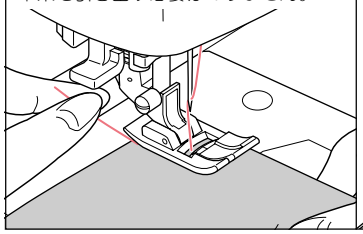
❻ 終わりまで来たら、ストップします。

❼ 糸切りボタンを押します。
- 30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。（下記「お知らせ参照」）
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

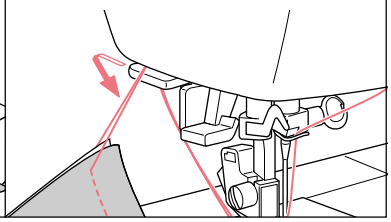
❽ 押えを上げ、布を引き出します。

注意：ケガ防止のために；
布地はミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

お知らせ：
糸切りボタンで糸を切った後、次のぬい始めからは、上糸だけをもってぬい始めます。
下糸を引き出す必要はありません。



糸切りボタンを使わないときは、押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の糸切りに後ろから手前にかけて糸を切ります。

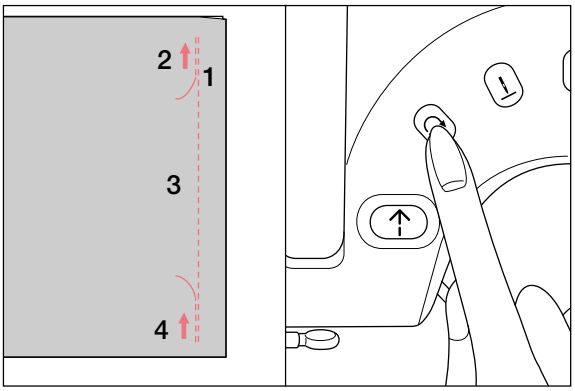


●返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、ぬいの始めと終わりに返しぬいをします。

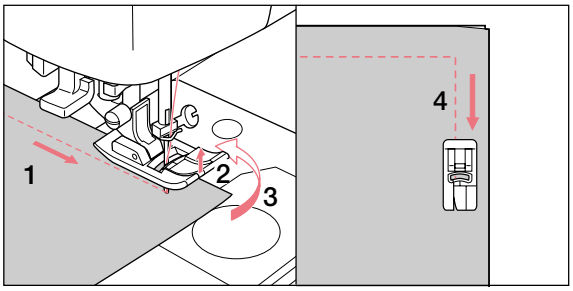
1. 返しぬいの分、布を奥に入れて押えを下げます。
2. 返しぬいボタンを押しながら、4〜5針返しぬいをします。
   ボタンをはなすと止まります。
3. スタートボタンを押して、ぬい進めます。
4. 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押します。

＊ 自動返しぬい付直線ぬいは、始めの返しぬいを自動でぬいます。（22ページ参照）



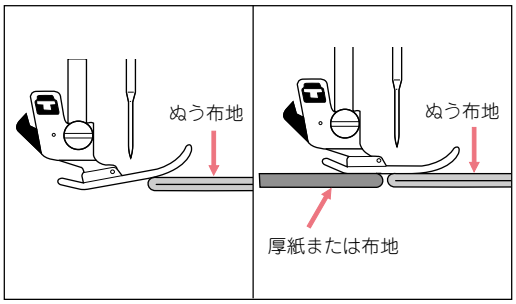
●ぬい方向のかえ方

1. 布地の角まできたら、ストップします。
   （針が下位置で停止します。）
2. 押えを上げます。
3. 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
4. 押えを下げて、ぬい始めます。



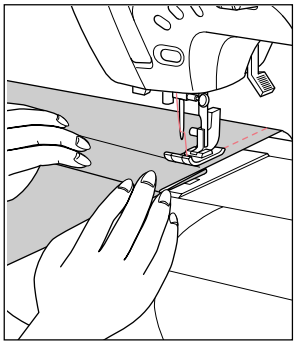
●厚地のぬい始め

厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。
このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがってぬい始めます。

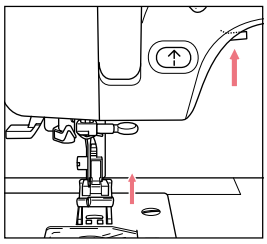


●段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



● 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



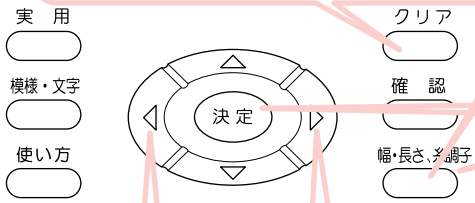
自動糸調子

このミシンは、上糸調子をぬい目に合わせてコンピュータで自動的に調節します。
電源を入れると糸調子は、「自動」（中央の緑色の目盛り）に設定されます。

❶ 上糸調子をかえてぬいたい場合は「幅・長さ、糸調子」ボタンを押して、「糸調子」を囲む枠を青にします。（「糸調子調節画面」）

- 基本ぬい、実用ぬいのときは、「幅、長さ調節画面」から切りかわります。
  ボタンを押すたびに切りかわります。
- 模様・文字ぬい（32ページ参照）のときは、「模様、文字選択画面」から切りかわります。
  もう一度押すともとの画面に戻ります。

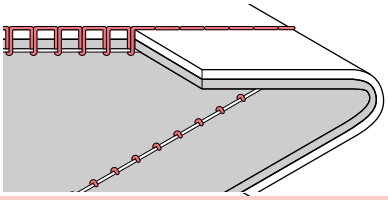
「クリア」ボタンを押すと、
糸調子は、「自動」に、
ふり幅と長さは、「設定値」に戻ります。



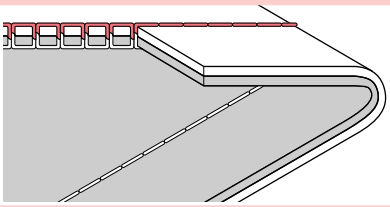
❸ 模様・文字ぬいのときは、最後に「決定」ボタンを押すか、「幅・長さ、糸調子」ボタンを押して「模様・文字選択画面」に戻ります。

❷「選択」ボタンの左側を押すごとに上糸調子は弱く、右側を押すごとに強くなります。（赤の目盛りが移動します。）

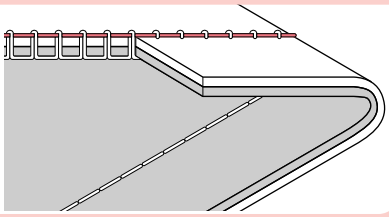
上糸が弱いぬい目
布地の裏側に上糸が出てきます。



自動（設定値）
上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。

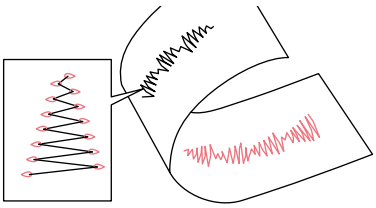


上糸が強いぬい目
布地の表側に下糸が出てきます。



- 基本・実用ぬいの場合、違うぬい模様を選ぶと、糸調子は「自動」に戻ります。
- 模様・文字ぬいの場合、違う模様・文字を選んでも糸調子は、戻りません。（「基本ぬい」を選んだり、「実用」ボタンを押すと戻ります。）
- 糸調子調節画面のままでも、スタートすることができます。

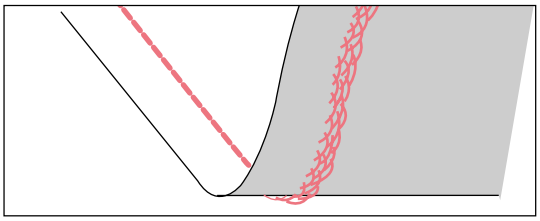
装飾模様や、文字ぬいでは、きれいにぬえるように上糸が少し布の裏側に出るように調節されます。

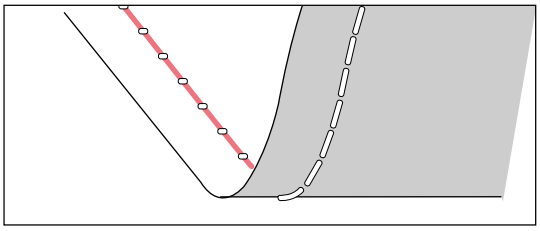


●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸のかけ方（とくに、糸調子装置への）が違っています。16ページをご覧の上、正しくかけ直してください。

また、糸調子が「自動」になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンの入れ方が違っています。15ページをご覧の上、正しく入れ直してください。





糸と針の選び方

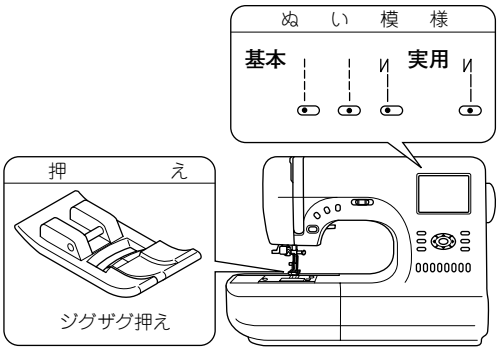
糸と針は、おぬいになる布地の種類や厚さに応じて選びます。

布地の種類	糸の番号	針の番号	ぬい目の長さ（直線ぬい）
薄地： 薄地ジョーゼット、オーガンディー、 ボイル、タフタ、絹布など	綿　80～100 絹　60～80 化繊糸 80～100	9～11番	1.4～2.5ミリ
普通地： ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、 サテン、薄手のコーデュロイ、別珍、 一般服地など	綿　50～80 絹　50 化繊糸 50～80	11～14番	2～3ミリ
厚地： ギャバジン、ツイード、デニム、 キルティング、コーデュロイなど	綿　30～50 絹　50 化繊糸 30～60	14～16番	2～4ミリ
伸縮性の布地： ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージなど	化繊糸 50～80 絹　50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	1.4～3ミリ

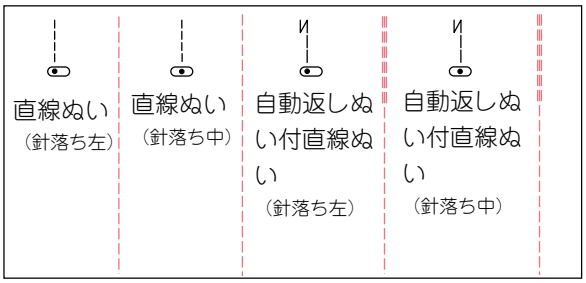
⚠ **注意：ケガ防止のために；**
針は、家庭用ミシン針（ＨＡ×１）とご指定の上、お買い求めください。

針の取りかえ方は、７ページを参照ください。

地ぬい（直線ぬい）



●布地に合わせて、ぬい模様を選びます。
針落ち左は、薄地や端ぬいに適しています。

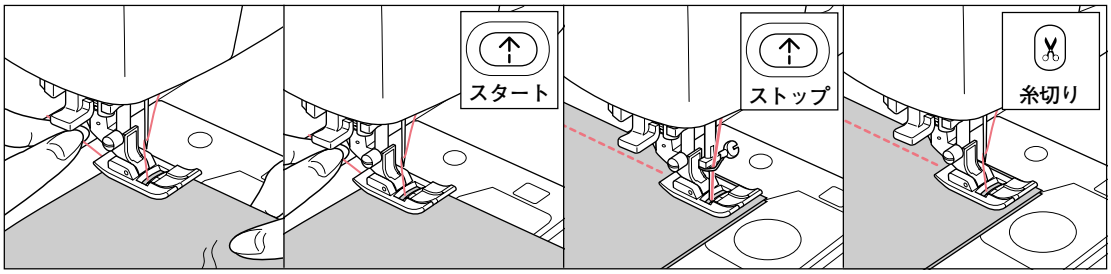


1 布を入れ、押えをおろします。

2 スタートボタンを押してスタートさせます。

3 ぬい終わりまできたらストップさせます。

4 糸切りボタンを押します。



糸はしをかるく持ちます。
手は布にかるくそえるようにします。

30番以下の太い糸や特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。（18ページ参照）

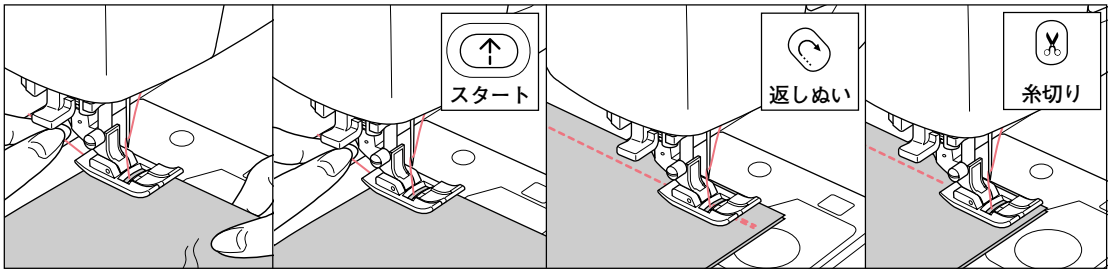
●自動返しぬい付直線ぬい

1 布を入れ、押えをおろします。

2 スタートボタンを押してスタートさせます。

3 ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを押します。

4 糸切りボタンを押します。



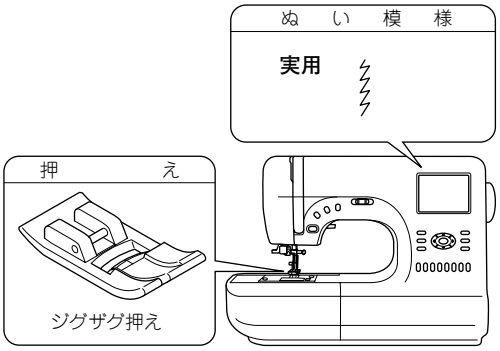
糸はしをかるく持ちます。
手は布にかるくそえるようにします。

ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。
ぬいを中断するには、スタート・ストップボタンを押します。

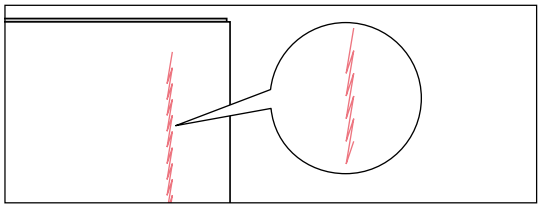
ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

30番以下の太い糸や特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。
（18ページ参照）

伸縮ぬい

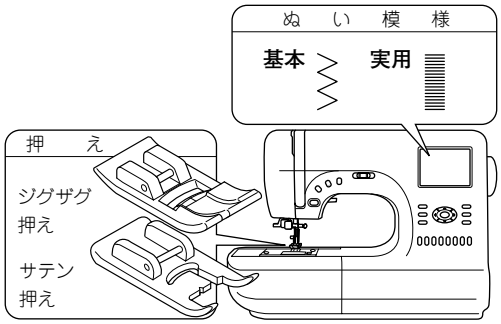


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

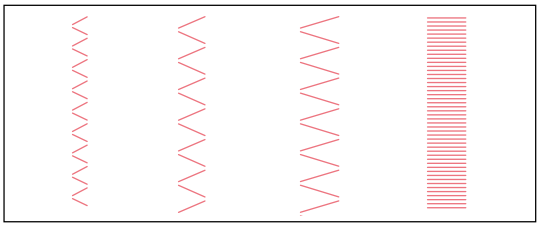


伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

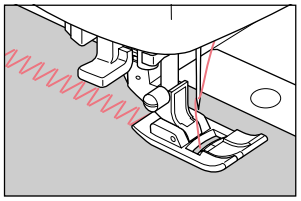
ジグザグぬい



ぬい目の幅、ぬい目の長さを調節して、いろいろな形のジグザグぬいができます。

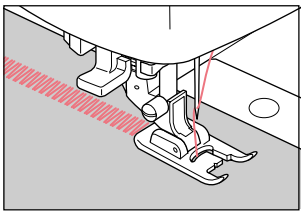


布地のはぎ合わせや、ふちかがりなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

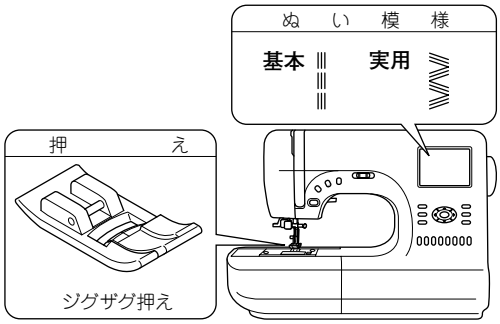


●密着ぬい（▒）

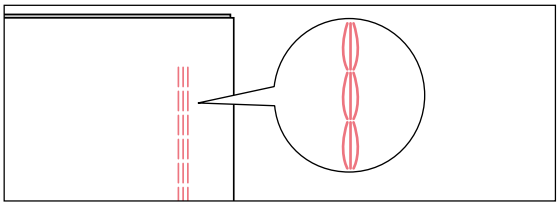
ジグザグのぬい目の長さをこまかくしたぬいです。このときは、サテン押えをお使いください。



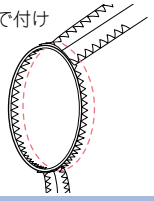
伸縮強化ぬい



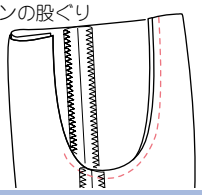
直線とジグザグの 3 重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



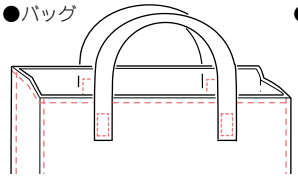
●そで付け



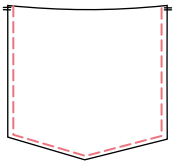
●ズボンの股ぐり



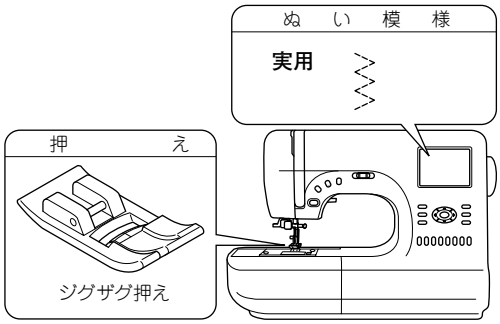
●バッグ



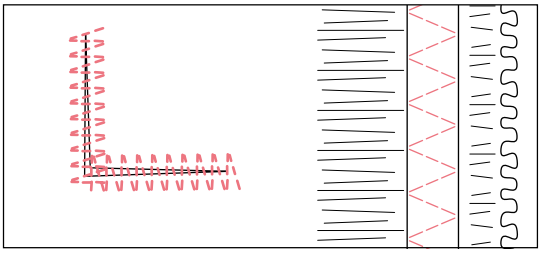
●ポケット



つくろいぬい（点線ジグザグぬい）

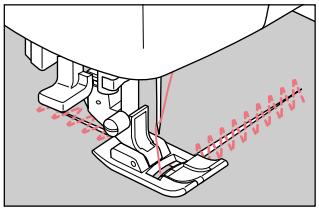


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。



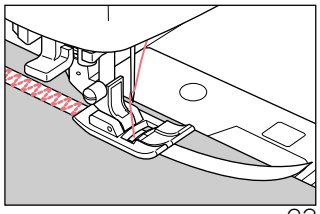
●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。

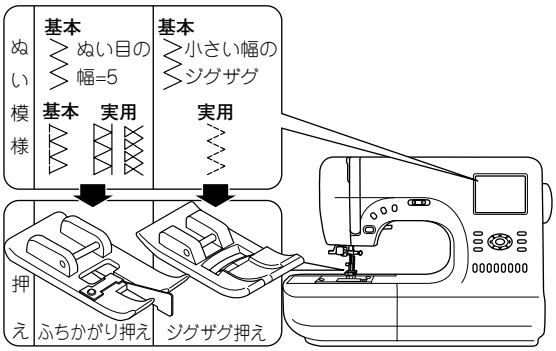


●ゴムひも付け

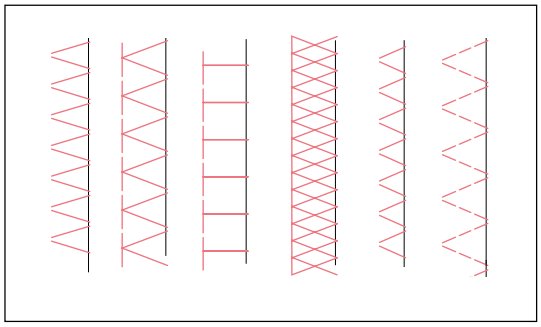
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。



ふちかがりぬい（たち目かがり）

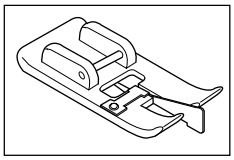


あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。



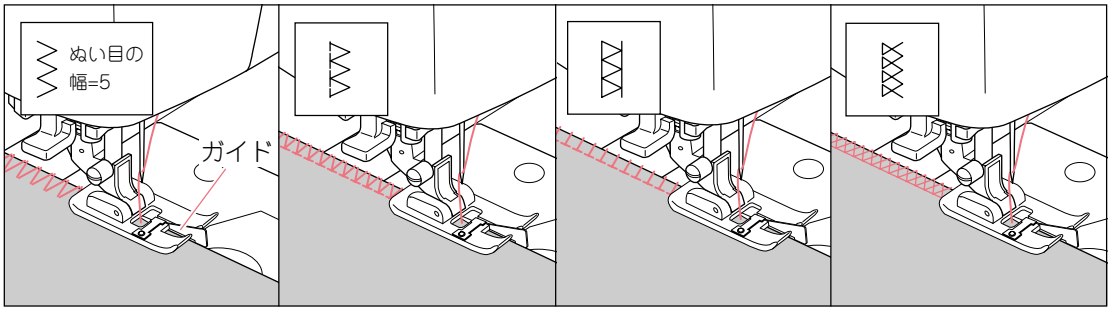
注意：ケガ防止のために；

ふちかがり押えは、必ず（ぬい目の幅=5）か、、だけにお使いください。ほかのぬい模様では、針が押えにあたり、危険です。



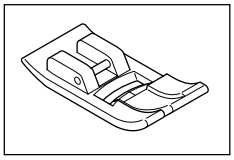
ふちかがり押えを使う場合：

布はしを押えのガイドにあて、針が布はしいっぱいに落ちるようにしてぬいます。



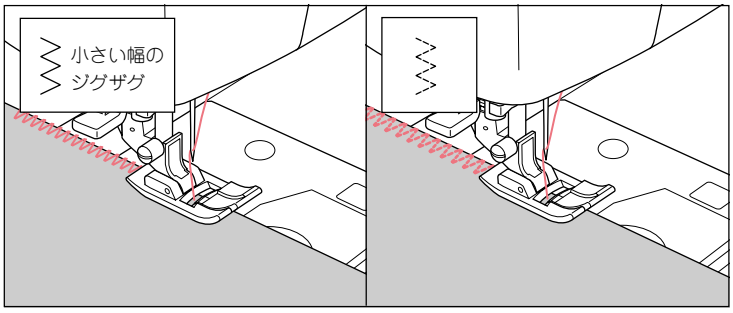
たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬいです。



ジグザグ押えを使う場合：

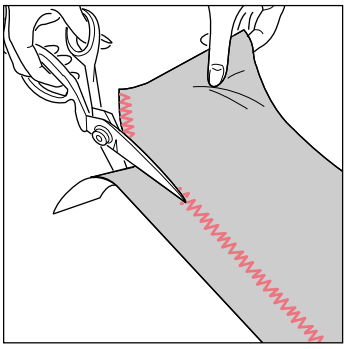
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。



かがり幅を小さくしたいときに使います。

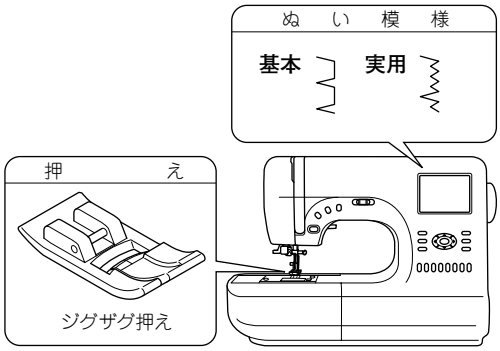
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。

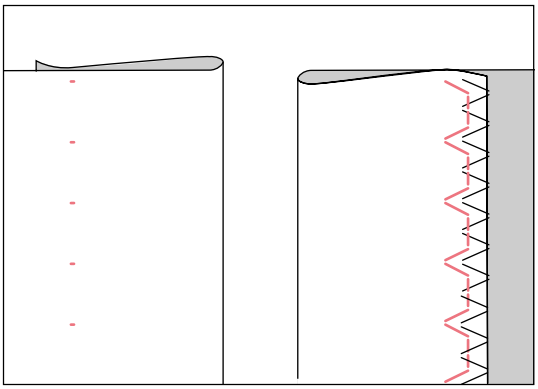


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

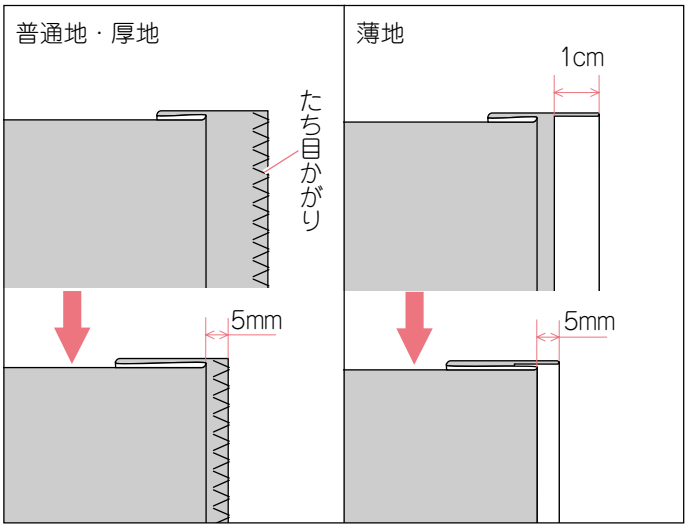
まつりぬい（ブラインドステッチ）



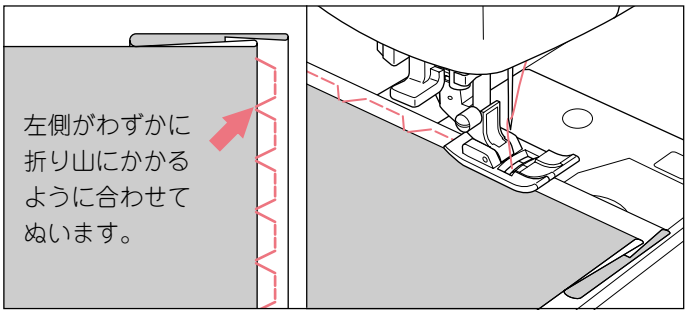
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。
ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。



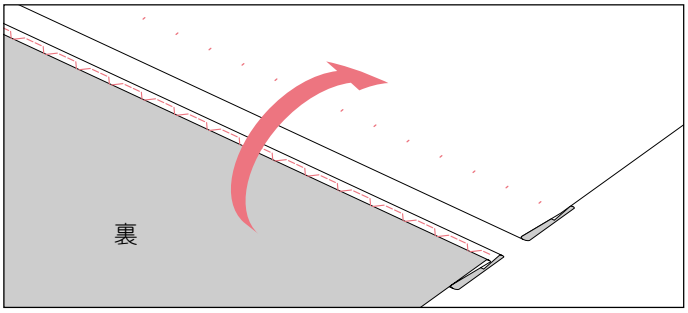
1 布を図のように折ります。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



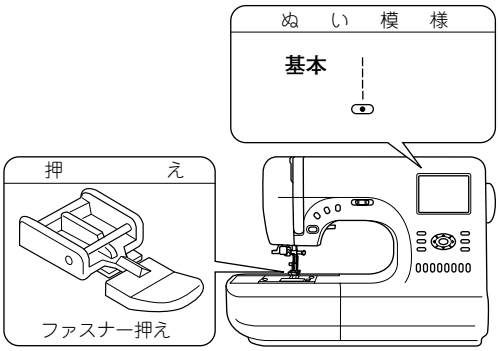
2 針が最も左側にきたとき、折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。
（針が上位置でぬい模様を選んだ時に、最も左にくるようになっています。）

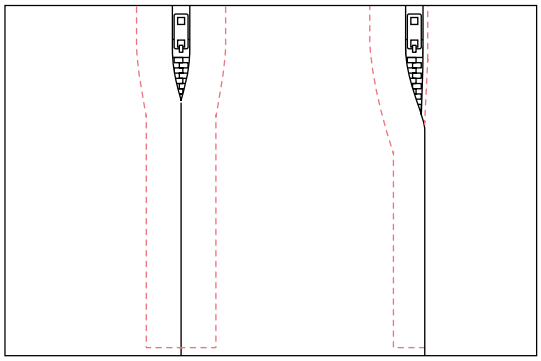


3 ぬい終わりましたら、布を返します。



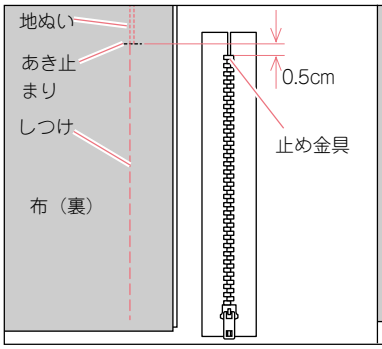
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）





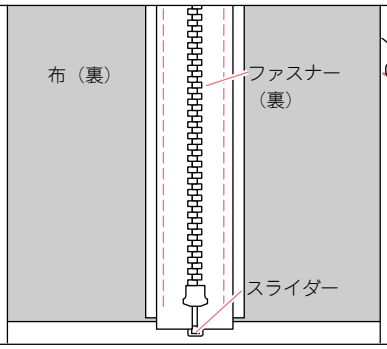
●つき合わせ

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。



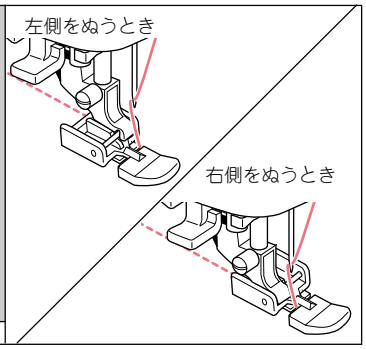
あき部分はしつけをします。

2 ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。



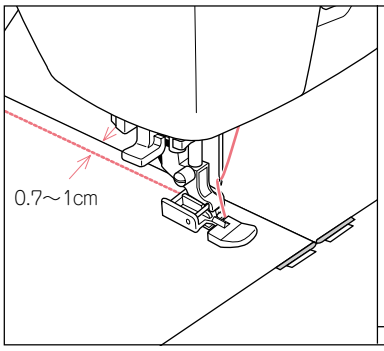
ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

3 ファスナー押えを取り付けます。



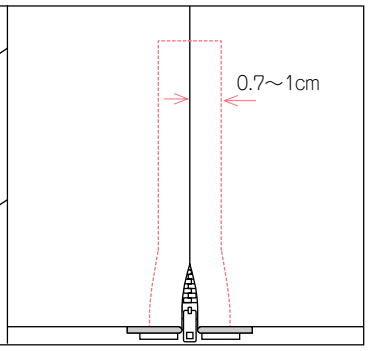
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。



布の合わせ目から0.7～1cm はなしてぬいます。

5 あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



右側も同様に0.7～1cm はなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；

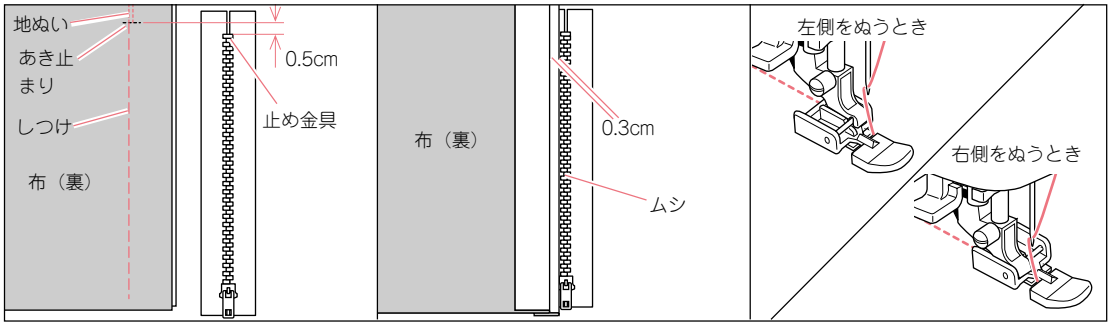
ファスナー押えは、必ず だけにお使いください。ほかのぬい模様では、針が押えにあたり、危険です。

●脇あき

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

3 ファスナー押えを取り付けます。



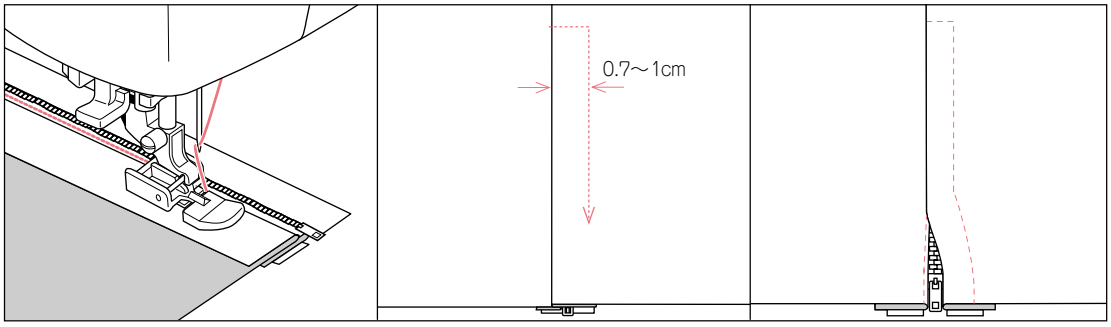
あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。

6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

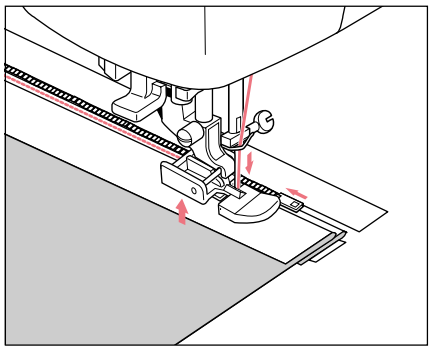


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

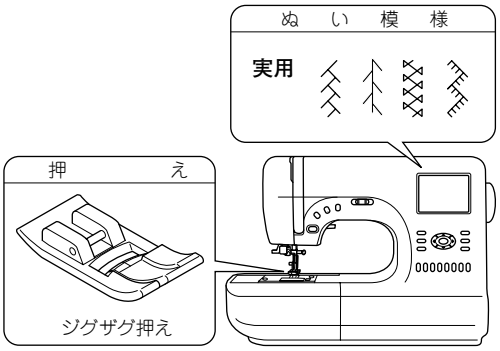
右側は、布の折り目から0.7～1cmはなしてぬいます。

● スライダーをよけてぬうには：

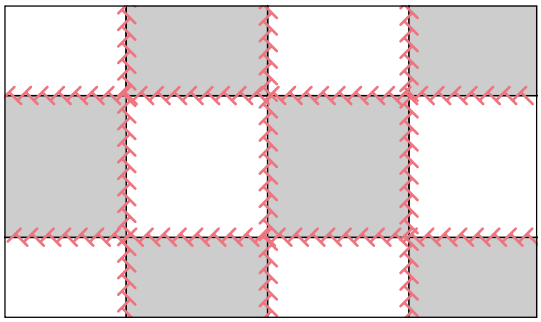
1. スライダーの手前でミシンを止めます。（針が下で止まります。）
2. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
3. 押えを下げてぬい続けます。



パッチワーク



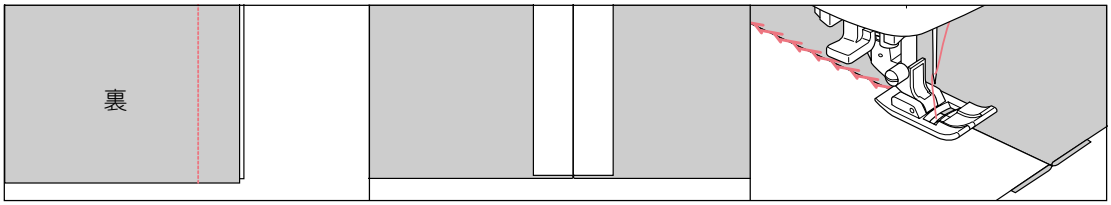
いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



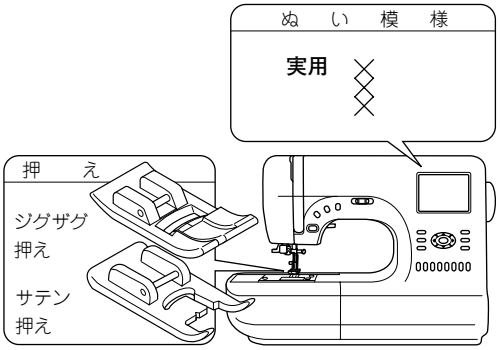
1 2 枚の布地を中表に合わせ、地ぬいをします。

2 ぬい代をわります。

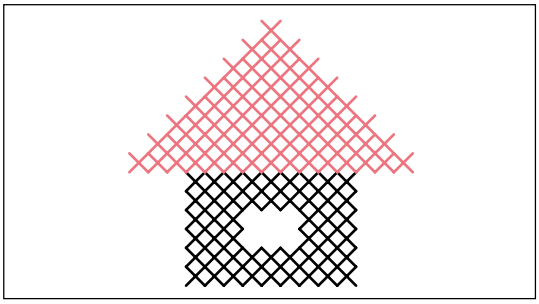
3 両方の布地にぬい目がまたがるようにしてぬいます。



クロスステッチ



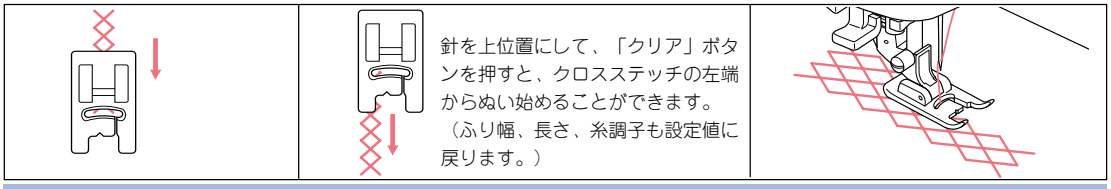
刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。



1 最初の列をぬいます。

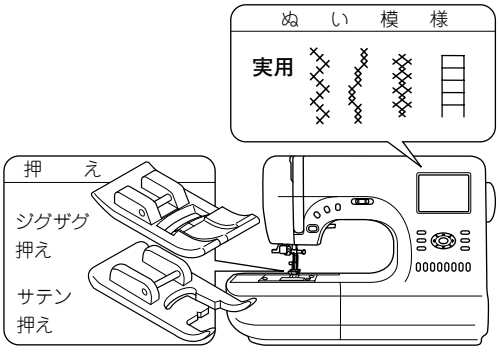
2 2 列目の左端が、最初の列の右端に合うように布を合わせてぬいます。

3 3列目以降も同じようにしてぬいます。

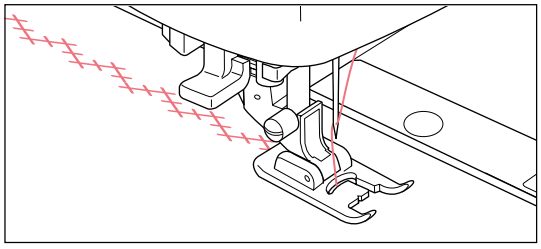


針を上位置にして、「クリア」ボタンを押すと、クロスステッチの左端からぬい始めることができます。（ふり幅、長さ、糸調子も設定値に戻ります。）

かざりぬい

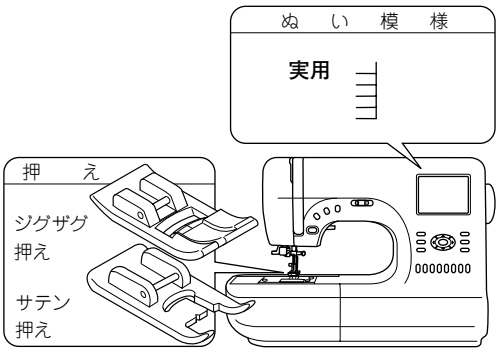


装飾的なぬいに用います。

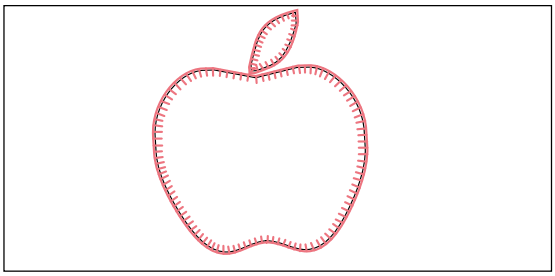


薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。

アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。

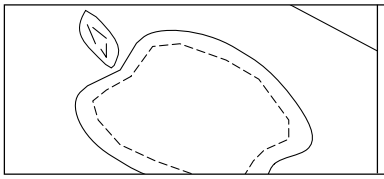


1 アップリケ布を止めます。

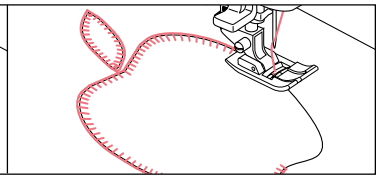
2 アップリケの布はしに針が落ちるようにしてぬいつけます。

●急な角度でぬう場合

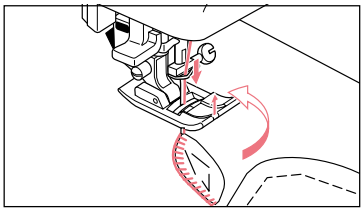
布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。



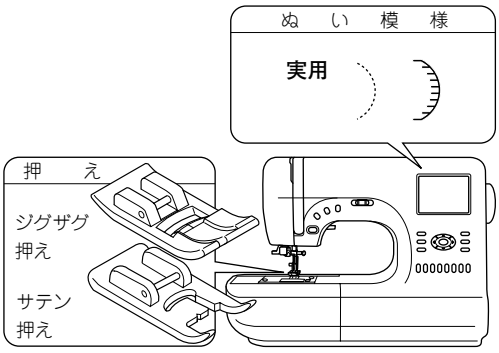
のり付けまたはしつけをします。



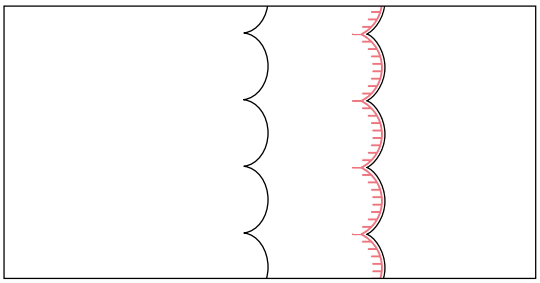
カーブの強いものは、ぬい目の幅（ふり幅）を小さくしてぬいます。



スカラップ



テーブルクロスやブラウスのえりのふち飾りに使います。

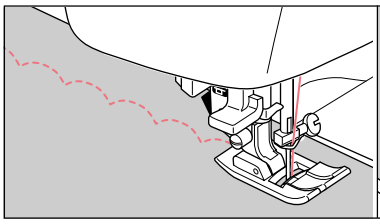


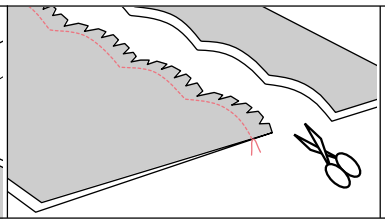
●**スカラップ 1**

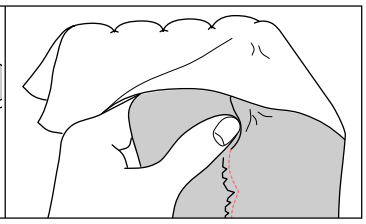
1 布を中表に折り、その端にそってぬいます。

2 ぬい目にそって0.3cm位のぬいしろをとって切り取り、ぬいしろに切り込みを入れます。

3 布を表に返して、ぬい目の山を表に押しだし、アイロンで仕上げます。



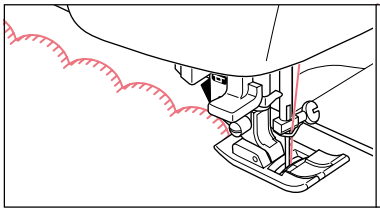


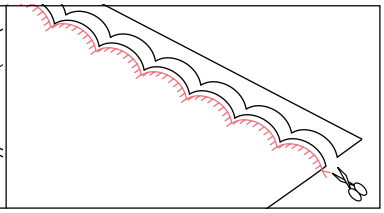


●**スカラップ 2**

1 布はしに模様がかからないようにはしを残してぬいます。

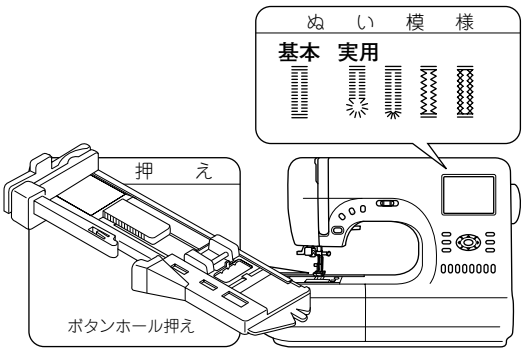
2 糸を切らないようにぬい目にそって布を切ります。



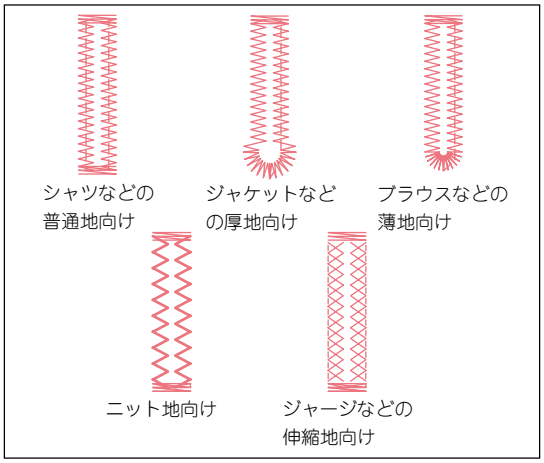


模様ぬい でもスカラップをぬうことができます。
この場合、サテン押えをご使用ください。

ボタンホールぬい



5種類のボタンホールをワンタッチでぬうことができます。



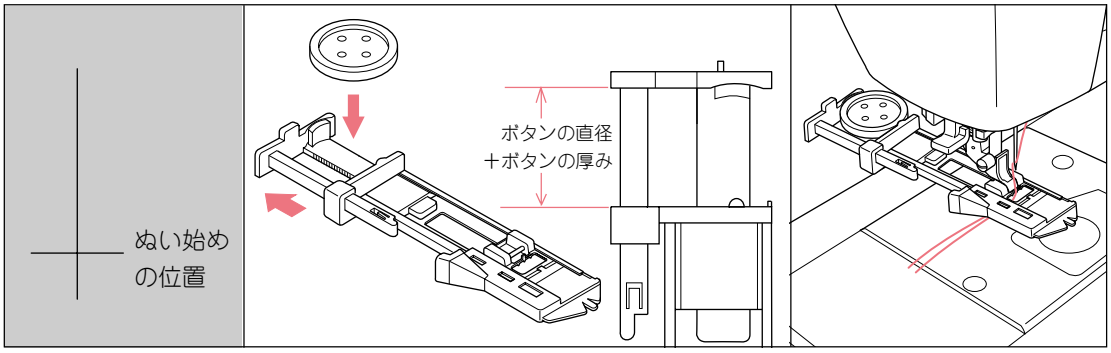
それぞれ大小のボタンホールをぬうことができます。大きいボタンホールをぬうときは、ぬい目の幅（ふり幅）を 5.0 に、小さいボタンホールをぬうときは、3.5 に合わせます。

1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。

2 ボタンを押えの台にセットします。

●台にボタンがのらないとき台の幅が「ボタンの直径＋ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

3 上糸を押えの穴に通し、上糸と下糸をそろえて左側に出しておきます。

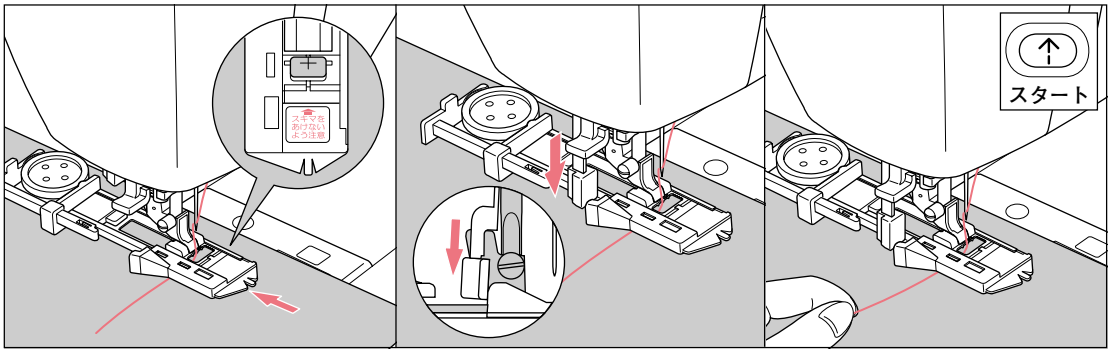


糸切りボタンで糸を切ったときは、下糸を出す必要はありません。

4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。

5 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。

6 上糸をかるく持ちながら、スタートさせます。

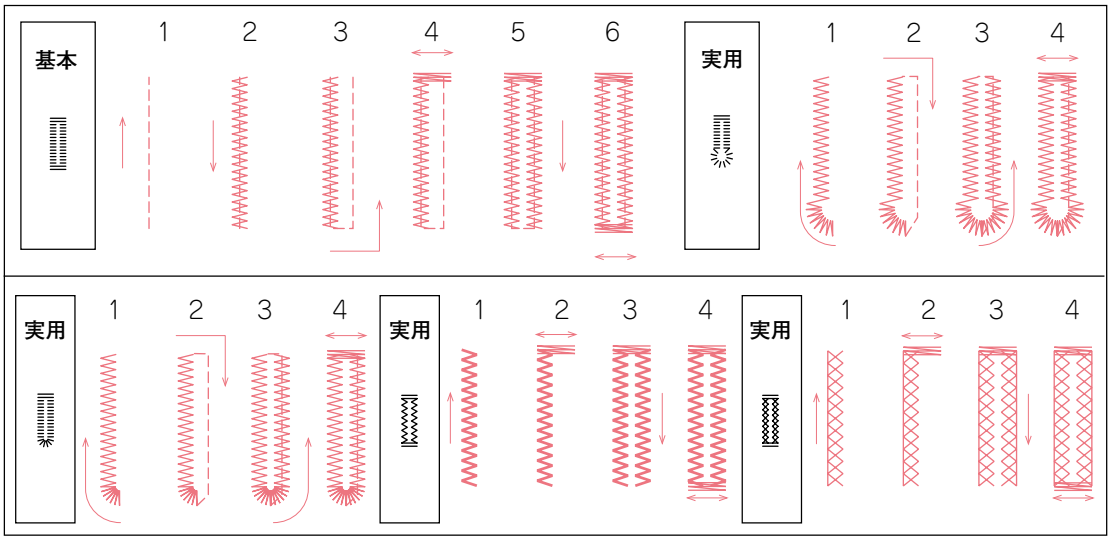


押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番向こう側に戻してください。

ボタンホールレバーは下まできちんと下げてください。

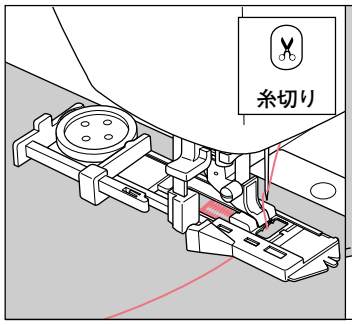
押えの枠と、ボタンホールレバーが正しい位置にないと、お知らせランプが赤く点灯して、スタートボタンを押しても、スタートしません。

7 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。



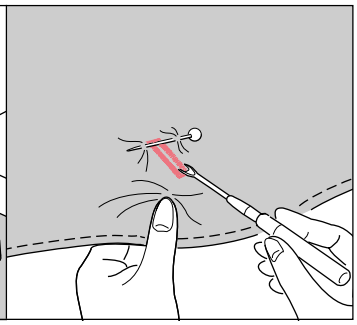
ぬい終わると自動的に止まります。

8 糸切りボタンを押します。
押えを上げ、布をはずします。



ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番向こう側に戻します。

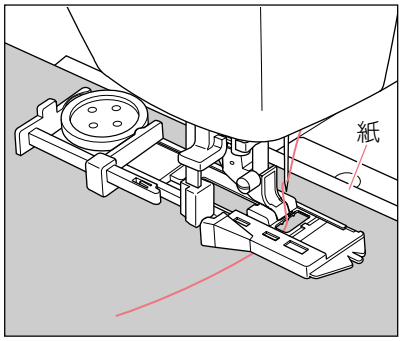
9 シームリッパーで穴を開きます。



ぬい糸を切らないように注意してください。かん止めのところにまち針を刺しておくと、切り過ぎがありません。

●伸縮性のある布地の場合

裏に紙などをしいてぬいます。
ぬい終わったら、紙を取り除きます。

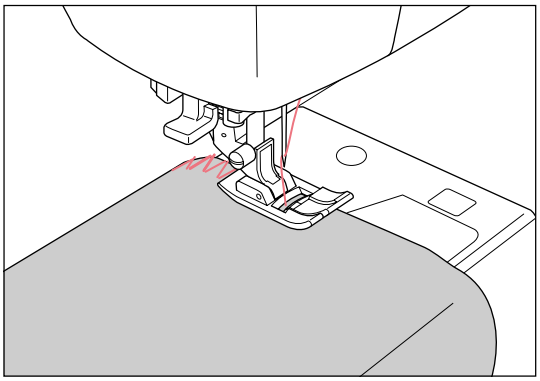


注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときケガをする恐れがあります。

フリーアーム ぬい

補助テーブルを取りはずすだけで、フリーアームミシンになります。
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単に出来ます。

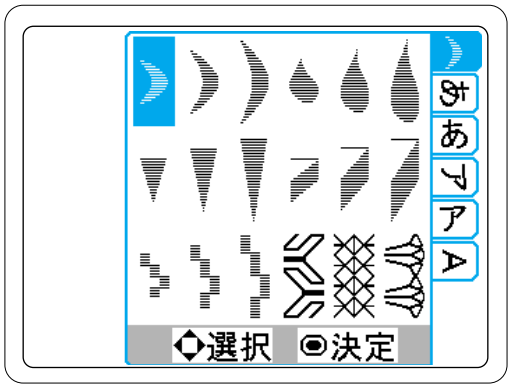
● 補助テーブルのはずし方は、6ページを参照ください。



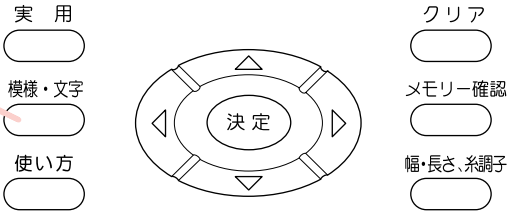
模様・文字ぬい

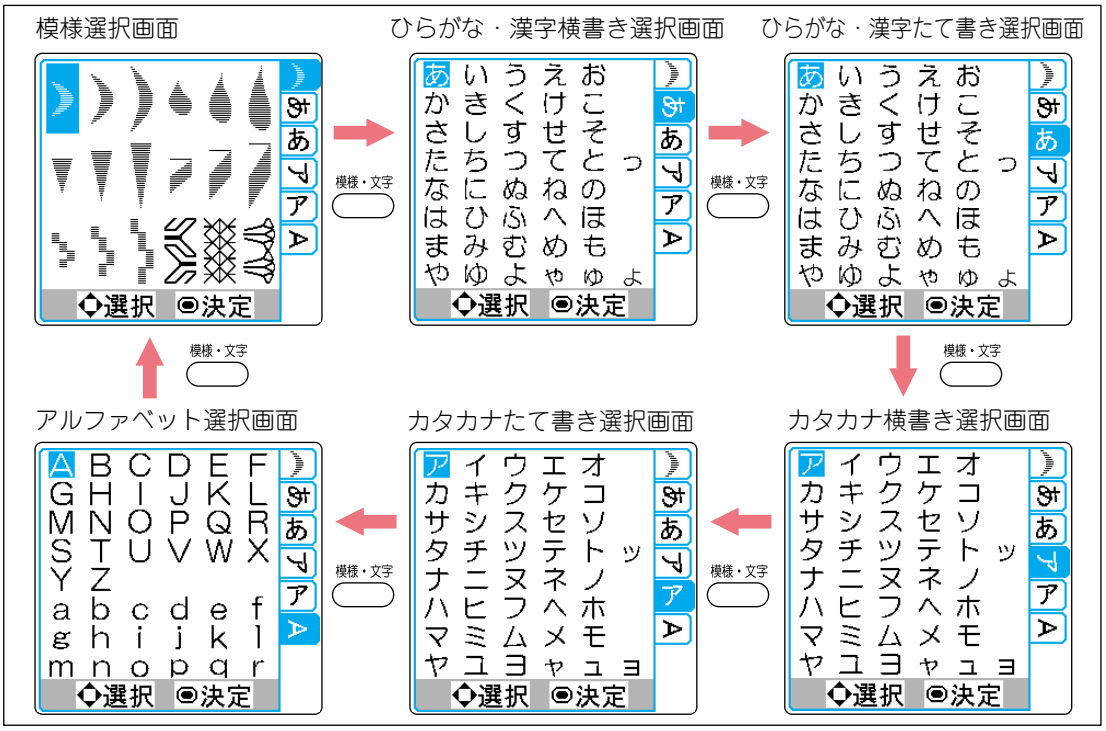
このミシンでは、模様と文字を組み合わせて、連続してぬうことができます。
文字は、ひらがな・漢字、カタカナ、アルファベットがあり、ひらがな・漢字、カタカナには、それぞれ横書きとたて書きの2通りがあります。（44ページ「ぬい模様一覧」参照）

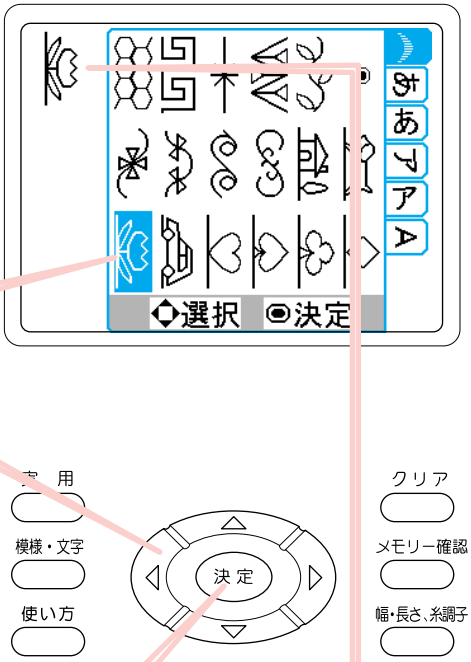
●模様・文字の選び方



❶ 模様・文字ボタンを押します。
1回押すと、模様選択画面になります。
ボタンを押すごとに、下図のように選択画面が切りかわりますので、最初にぬいたい模様・文字の画面を選んでください。







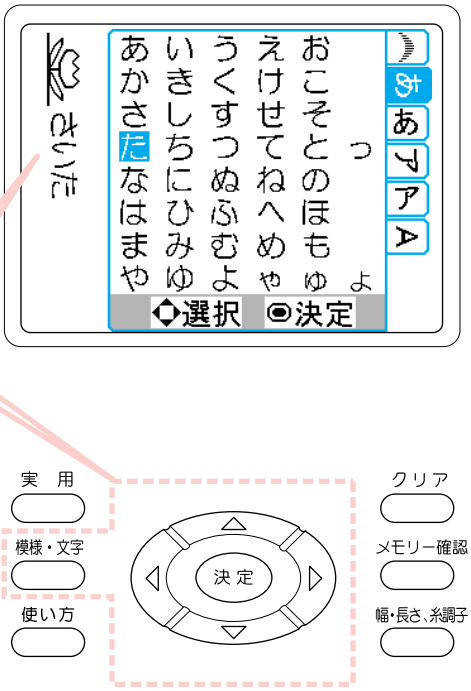
❷ 「選択」ボタンで最初にぬいたい模様または、文字を選びます。
反転表示している模様・文字が選ばれたぬい目です。

画面のいちばん下行のぬい目を選んでいるときに、「選択」ボタンの下側を押すと、さらに下に続く行が表示されます。ボタンを押すごとに下の行に移動します。
同様に最も上の行を選んでいるときに、「選択」ボタンの上側を押すと、さらに上にある行が表示されます。

模様、文字の配列は、トップカバー内側やこの手びきの44ページにある「ぬい模様一覧」を参照ください。

❸ 模様・文字を選んだら、「決定」ボタンを押します。
画面左側にその模様・文字が表示され、ミシンに記憶（メモリー）されます。

何も記憶させないでスタートボタンを押しても、お知らせランプが赤く点灯して、スタートしません。
「決定」ボタンを押して記憶される模様の１単位が、44ページ「ぬい模様一覧、模様ぬい」に表示してあります。
（文字の場合は、１文字が記憶されます。）



❹ 同じようにして、次にぬいたい模様・文字を選んで、「決定」ボタンを押します。
記憶した模様・文字が、画面左側に順番に表示されていきます。

表示しきれなくなったときは、先頭の部分が画面から消えていきます。（画面から消えてもミシンは、選んだ順番を記憶しています。35ページ「模様・文字の確認」参照）

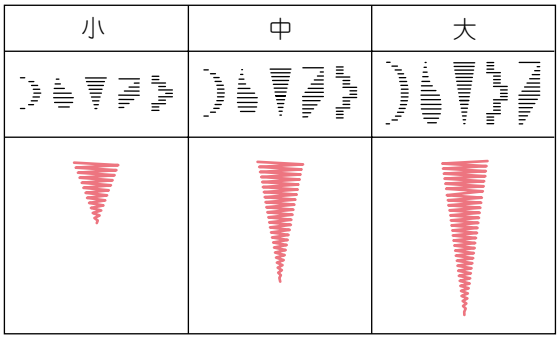
模様・文字は50個まで記憶することができます。

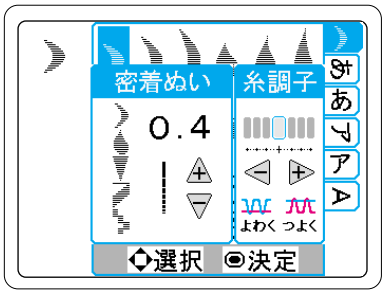
止めぬい（◉）以外の模様を最後に記憶させると、ミシンは、記憶した模様・文字をくり返してぬいます。

止めぬい（◉）または、文字を最後に記憶させると、ミシンは、記憶した模様・文字を一組ぬい終えると自動的に止まります。（36ページ「模様・文字のぬい方」参照）

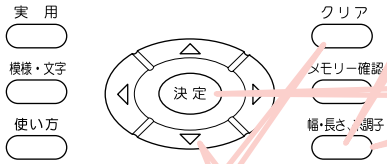
●密着ぬい

模様ぬいの中の５種類の密着ぬいは、それぞれ長さの違う３つの模様があります。
さらに、これらはぬい目の長さを調節することができます。





❶ 密着ぬいを少なくとも１つ記憶させた後、「幅・長さ、糸調子」ボタンを押します。
「密着ぬい」調節画面に切りかわります。
同時に「糸調子」調節画面（20ページ参照）も表示されます。
密着ぬいが１つも記憶されていないと、「密着ぬい」調節画面は、表示されません。



❸ 調節が終わったら、「決定」ボタンを押すか、「幅・長さ、糸調子」ボタンを押して「模様・文字選択画面」に戻ります。

❷ 「選択」ボタンでぬい目の長さを調節します。
上側を押すとあらく、下側を押すとこまかくなります。
最大値、最小値になると、ピピピッとなってお知らせします。
「選択」ボタンの左右を押すと糸調子が変わります。

「クリア」ボタンで設定値に戻ります。
糸調子も「自動」に戻ります。

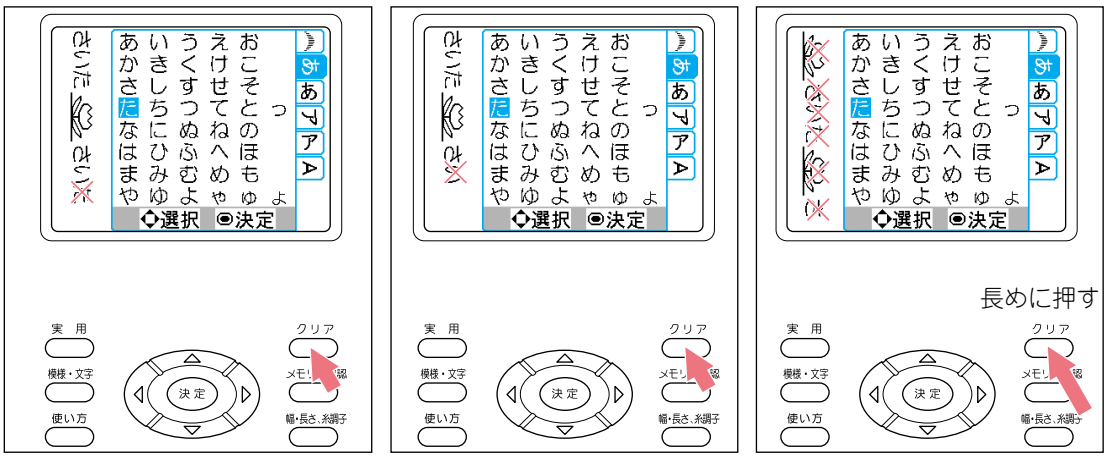
- 密着ぬいのぬい目の長さを変えると、記憶した密着ぬい全ての長さが変わります。
- ぬい目の長さが変わるのは、密着ぬいの模様だけです。一緒に組み合わせた他の模様や文字のぬい目の長さは、変わりません。
- 「密着ぬい」調節画面のままでも、スタートさせることができます。

●模様・文字の取り消し

1 組み合わせた模様・文字を取り消したいときは、「クリア」ボタンを押すと、最後に選んだ模様・文字が取り消されます。

2 「クリア」ボタンを押すごとに、後ろから一つずつ取り消されていきます。

3 長めに押すとまとめて取り消されます。



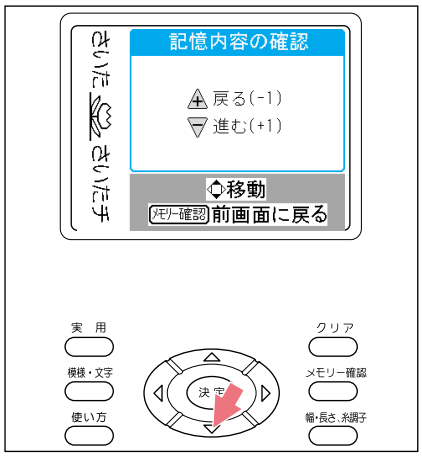
●模様・文字の確認

記憶させた模様・文字が表示しきれなくなった場合は、先頭の部分が画面から消えていきますが、ミシンは、この順番を記憶しています。
「メモリー確認」ボタンで、記憶させた模様・文字を確認することができます。

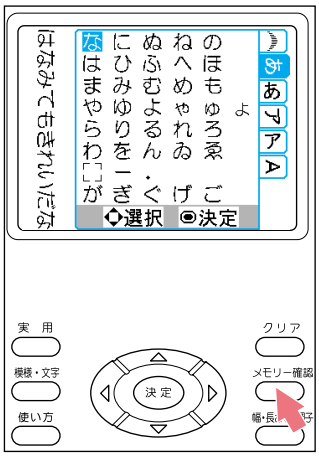
1「メモリー確認」ボタンを押すと、最初に記憶させた模様・文字から順番に表示されます。

2「選択」ボタンの下側を押すと、次に選んだ模様・文字が表示されます。ボタンを押すごとに次の模様・文字を表示していきます。ボタンの上側を押すと、前に戻ります。

3「メモリー確認」ボタンを押すと、「メモリー確認」ボタンを押す前の画面に戻ります。



最後まで表示した状態で、ボタンの下側を押すと、「ピピピッ」となります。
同様に最初の部分を表示して、ボタンの上側を押しても「ピピピッ」となります。



「記憶内容の確認」画面のまま、スタート・ストップボタンを押すと、前の画面に戻ると同時に、ぬい始めます。

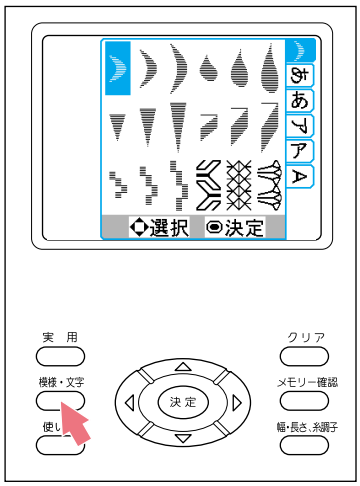
●模様・文字の呼び出し

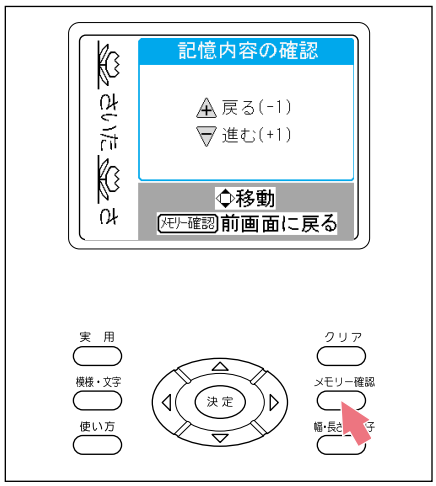
模様・文字の組み合わせは、一度記憶させると、基本ぬいや実用ぬいをぬった後からでも呼び出せます。

1基本、実用ぬいをぬった後、「模様・文字」ボタンを押して、模様または、文字選択画面にします。

2何も記憶させないで「メモリー確認」ボタンを押すと、前に記憶させた模様・文字が呼び出され、「模様・文字の確認」と同じ状態になります。

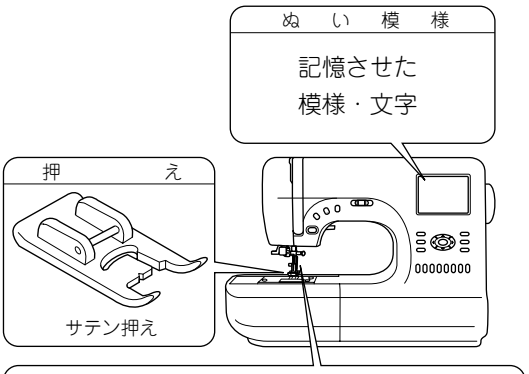
● 密着ぬいのぬい目長さと、糸調子は、設定値に戻ります。



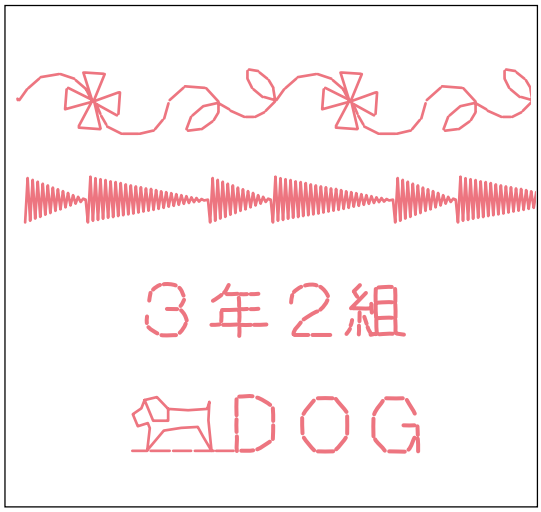


ご注意：
「メモリー確認」ボタンを押す前に、「決定」ボタンを押すと、新たに記憶が開始され、前に組み合わせた模様・文字は削除されます。

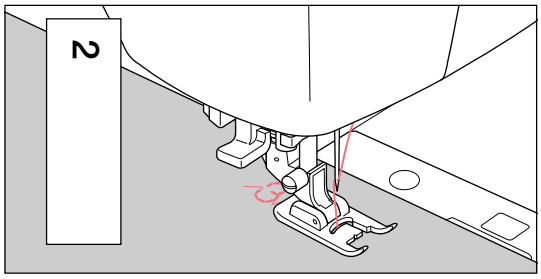
模様・文字のぬい方



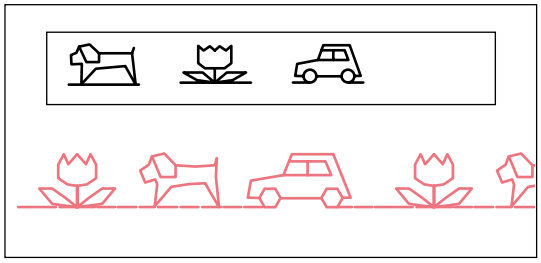
文字ぬいのときの針は、11番のニット針が適しています。
また、糸は、細めのものをお使い下さい。



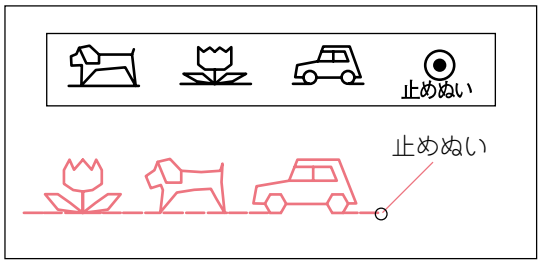
模様・文字を記憶させた後、布をセットして、スタート・ストップボタンを押します。
ミシンは記憶した模様・文字を順番にぬっていきます。
ぬっている最中は、ぬっている模様・文字が画面のいちばん左上に表示されます。



順番の最後に模様ぬい（止めぬい ⦿ を除く）を記憶させると、ミシンは、スタート・ストップボタンでストップさせるまで、同じ組み合わせを繰り返しぬいます。

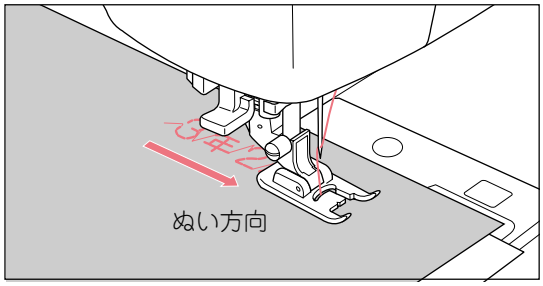


順番の最後が文字ぬい、止めぬい（⦿） のときは、ミシンは組み合わせを一組ぬうと、自動的に止まります。
＊順番の最初や途中に止めぬいを入れても、ストップしません。

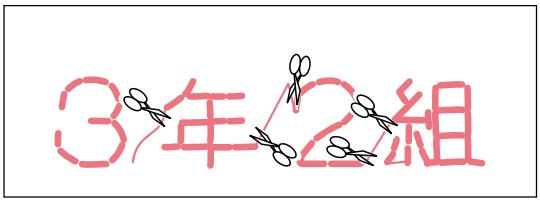


電源を切ると、記憶させた模様・文字は、すべて削除されます。

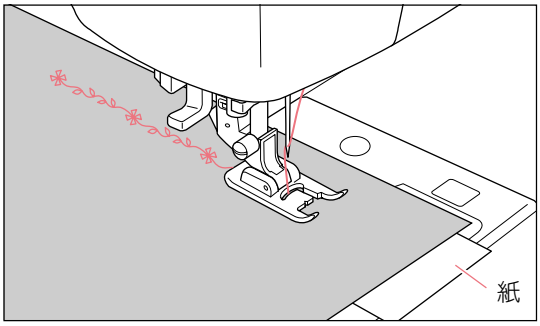
ひらがな・漢字、カタカナの横書きとアルファベットは、文字を横に倒した状態で、たて方向にぬい進みます。



文字ぬいの場合、ぬい終わったら、文字と文字の間の余分な上糸を切り取って仕上げます。

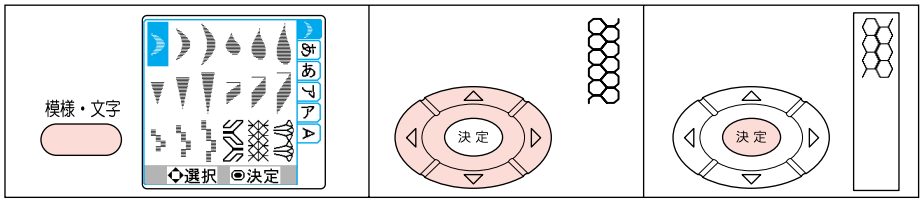


薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。



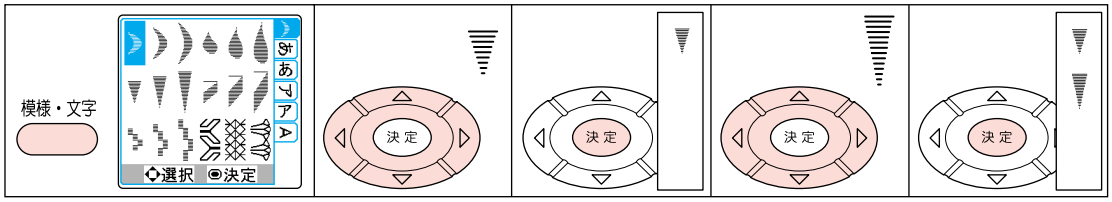
●例

単独模様ぬい 同じ模様を続けてぬいます。



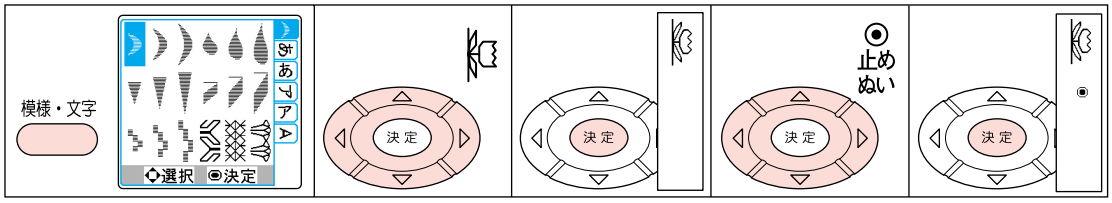
1.「模様・文字」ボタンで模様選択画面を開く。 2.「選択」ボタンで模様を選ぶ。 3.「決定」ボタンを押す。

密着ぬい 組み合わせた模様を繰り返しぬいます。



1.「模様・文字」ボタンで模様選択画面を開く。 2.「選択」ボタンで模様を選ぶ。 3.「決定」ボタンを押す。 4. 次の模様を選ぶ。 5.「決定」ボタンを押す。

ワンポイントぬい 模様を１回ぬって止まります。

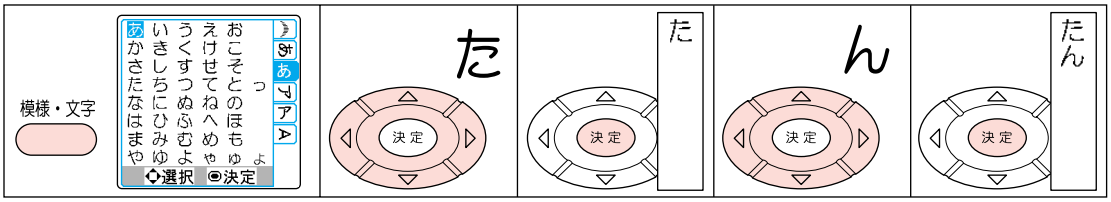


1.「模様・文字」ボタンで模様選択画面を開く。 2.「選択」ボタンで模様を選ぶ。 3.「決定」ボタンを押す。 4. 止めぬいを選ぶ。 5.「決定」ボタンを押す。

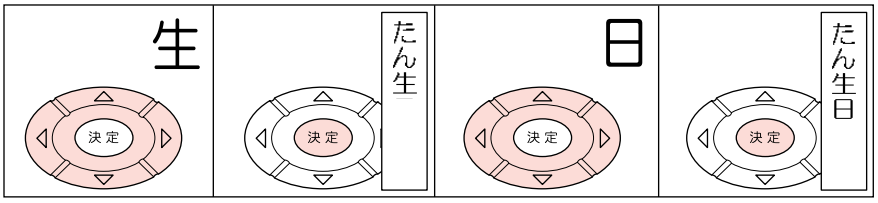
●例（続き）

文字ぬい

組み合わせた文字を１回ぬって止まります。



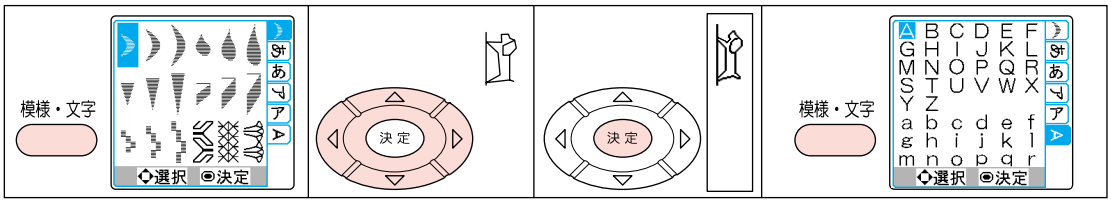
1.「模様・文字」ボタンでひらがな・漢字たて書き選択画面を開く。
2.「選択」ボタンで「た」を選ぶ。
3.「決定」ボタンを押す。
4.「選択」ボタンで「ん」を選ぶ。
5.「決定」ボタンを押す。



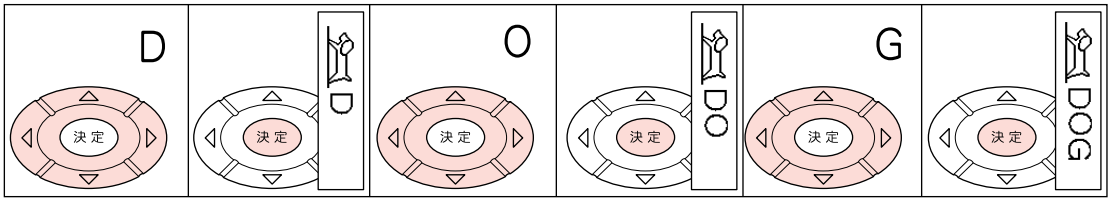
6.「選択」ボタンで「生」を選ぶ。
7.「決定」ボタンを押す。
8.「選択」ボタンで「日」を選ぶ。
9.「決定」ボタンを押す。

模様と文字の組み合わせぬい

組み合わせた模様と文字を１回ぬって止まります。



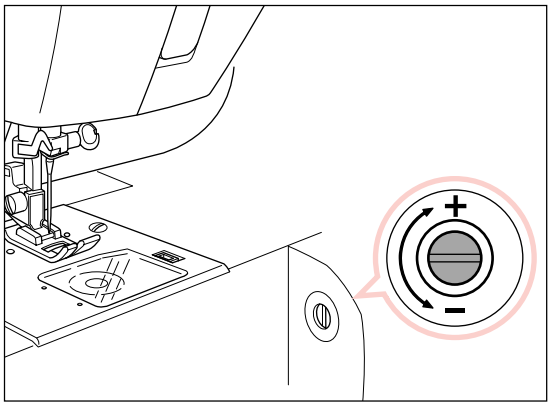
1.「模様・文字」ボタンで模様選択画面を開く。
2.「選択」ボタンで模様を選ぶ。
3.「決定」ボタンを押す。
4.「模様・文字」ボタンでアルファベット選択画面を開く。



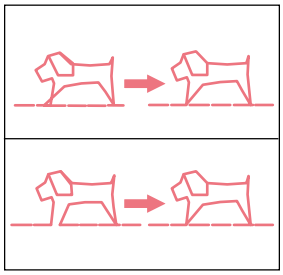
5.「選択」ボタンで「D」を選ぶ。
6.「決定」ボタンを押す。
7.「選択」ボタンで「O」を選ぶ。
8.「決定」ボタンを押す。
9.「選択」ボタンで「G」を選ぶ。
10.「決定」ボタンを押す。

ぬい目の形の調整

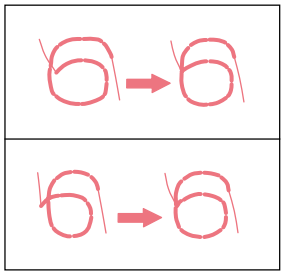
布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によってはぬい目の形がくずれてしまう場合があります。模様ぬい、文字ぬいをしているときに形がくずれるようでしたら、バランス調整ネジを回してきれいなぬい目が得られるように調整してください。



模様ぬい
右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。
右の図のようなときは、ネジを（−）に回します。



文字ぬい
右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。
右の図のようなときは、ネジを（−）に回します。



仕様

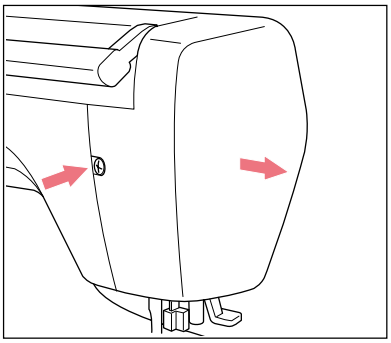
定格電圧	100 V
消費電力	80 W
周波数	50 Hz/60 Hz
ランプ定格	8 V / 2.4 W
寸法	幅：440 mm × 高さ：300 mm × 奥行き：190 mm
重量	10.5 Kg

警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

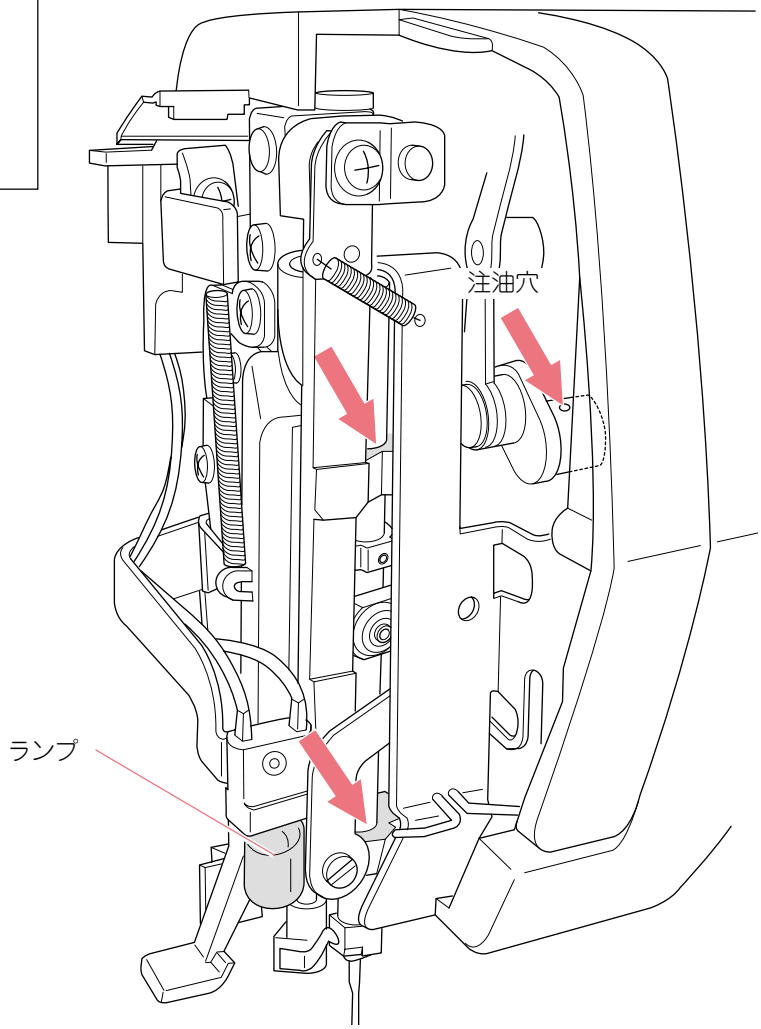
●ランプの交換

1 面板後ろの止ネジをゆるめます。
2 面板を左に引いて取りはずします。
3 ランプを引き抜きます。
●ランプはミシンをお買い上げの販売店でお求めください。

注意：ケガ防止のために；
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。



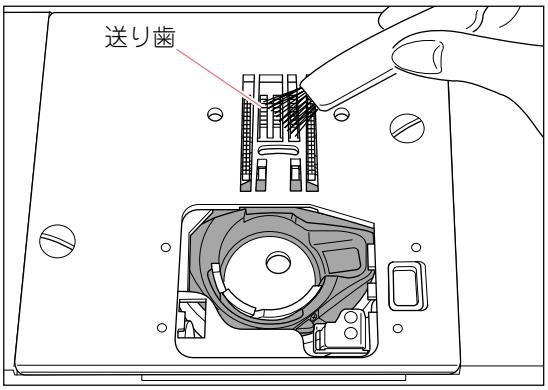
このミシンは特に注油の必要はありませんが、数カ月以上ご使用にならないときは、右図の矢印のところに油をさしておいてください。
● かまやボビンケースには、油をささないでください。



警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

●かまと送り歯の掃除

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

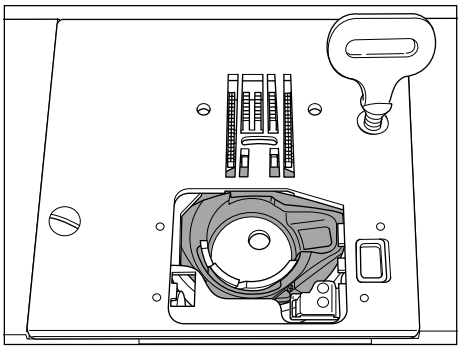


＊ ボビンケースの掃除

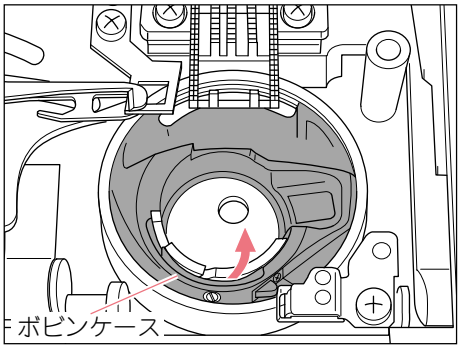
ボビンカバーとボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

＊ 外がまと送り歯の掃除（針板のはずし方）

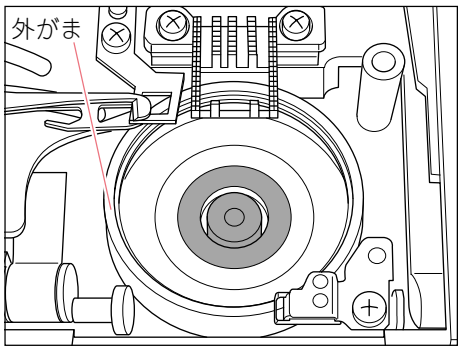
1 針と押えを取りはずします。ボビンカバーとボビンを取りはずします。ねじをはずし、針板を取りはずします。



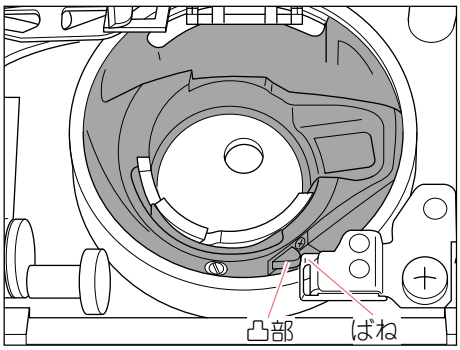
2 ボビンケースの手前を上に持ち上げて取り出します。



3 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいた布でかるくふき取ります。



4 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。



お知らせメッセージ

ミシンが正しくない状態でスタートしようとしたときや、間違った操作をしたときには、ピピピッと電子音がなってお知らせ画面にメッセージが表示されます。

これ以上、選ぶことができません。

メッセージ	原因	処置	参照ページ
押えを下げて下さい	押えを上げたままスタートさせようとしている	布地を入れ、押えを下げてぬってください	10, 18
上糸または下糸をかけなおして下さい	上糸が無くなったか、糸のかけ方がおかしい（下糸が無くなっても表示される場合があります）	上糸または下糸を正しくかけなおしてください	16
模様・文字を選んで決定して下さい	模様・文字ぬいで何も記憶させないままスタートしようとしている	模様・文字を選んで決定ボタンを押してください	32
ボタンホールレバーをセットして下さい	ボタンホールぬいを選んだ状態で、ボタンホールレバーと、ボタンホール押えが正しい位置にないのにスタートさせようとしている	ボタンホール押えとボタンホールレバーを正しくセットするか、ボタンホールぬい以外のぬい模様を選んでください	30
押えを上げて、セットしなおして下さい	ボタンホールをぬい終わったのに、もう一度スタートさせようとしている。	押えを上げ 、ボタンホール押えをぬい始めの位置に正しくセットしてから押えを下げます。	30
これ以上、選ぶことができません	記憶させた模様・文字が50個をこえてしまった	記憶させる模様・文字は50個以内にしてください	33
返しぬいボタンをはなして下さい	返しぬいボタンを押したまま電源スイッチを入れたか、糸からみなどでミシンが緊急停止したときに返しぬいボタンが押されたままである	返しぬいボタンをはなしてください	10
スタート・ストップボタンをはなして下さい	スタート・ストップボタンを押したまま電源スイッチを入れたか、糸からみなどでミシンが緊急停止したときにスタート・ストップボタンが押されたままである	スタート・ストップボタンをはなしてください	10
針上下ボタンをはなして下さい	針上下ボタンを押したまま電源スイッチを入れた	針上下ボタンをはなしてください	10
糸切りボタンをはなして下さい	糸切りボタンを押したまま電源スイッチを入れた	糸切りボタンをはなしてください	10
フットコントローラーが接続されています	フットコントローラー（別売り）が接続されているのに、スタート・ストップボタンを押した	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずしてください	9
フットコントローラーをはなして下さい	フットコントローラー（別売り）のペダルを踏んだまま電源スイッチを入れたか、止めぬい、文字ぬい、ボタンホールぬいをぬい終わったのにペダルを踏んでいる。または糸からみなどでミシンが緊急停止したときにペダルが踏まれたままである	ペダルをはなしてください	9
電源を切って糸をかけなおして下さい	糸切り装置のエラー（30番以下の太い糸や、特殊な糸を使っている）	電源スイッチを切ってボビンを入れ直してください（30番以下の太い糸や、特殊な糸には糸切りボタンを使わないでください）	8, 15
システムの異常です	コンピュータのエラー	電源スイッチを入れ直してください（それでも同じメッセージが出る場合は、修理・サービスをお申しつけください）	8

不調の原因と処置

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	●糸のかけ方がまちがっている ●ボビンケースに糸がからまっている ●針の取りつけ方がまちがっている ●布地に対して糸が弱すぎる	正しくかけ直します からんだ糸を取りのぞきます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	16 41 7 21
下糸が切れる	●ボビンの入れ方がまちがっている ●ボビンケースに糸がからまっている ●かまにゴミがたまっている	正しく入れ直します からんだ糸を取りのぞきます 掃除します	15 41 41
ぬい目がとぶ	●針の取りつけ方がまちがっている ●針が曲がっているか、先がつぶれている ●布地に対して糸と針が合っていない	正しくつけ直します 針を取りかえます 布地と糸、針の関係を合わせます	7 7 21
ぬい目にしわがよる	●糸のかけ方がまちがっている ●ボビンの入れ方がまちがっている ●針の先がつぶれている	正しくかけ直します 正しく入れ直します 針を取りかえます	16 15 7
ぬい目に輪ができる	●ボビンの入れ方がまちがっている ●糸のかけ方がまちがっている	正しく入れ直します 正しくかけ直します	15 16
糸通しができない	●針が上に上がっていない ●針の取りつけ方がまちがっている ●針が曲がっている	針上下ボタンで針を上に上げます 正しくつけ直します 針を取りかえます	10 7 7
布地を送らない	●ぬい目の長さが布地に合っていない ●送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目の長さを調節します 掃除します	13 41
針が折れる	●布地を無理に引っ張っている ●ぬい模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） ●針の取りつけ方がまちがっているか、しめ方がゆるい ●布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします ぬい模様にあった押えを取りつけます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	18 22～ 7 21
回転が重く音が高い 糸切りの切れが悪い	●かまの内部や送り歯にごみがたまっている	針板をはずして掃除します	41
ミシンが動かない	●電源プラグの差し込みが不十分である ●電源スイッチが入っていない ●コントローラー（別売り）が取り付けてある ●糸巻き軸が右へ押されている ●押えが上がっている ●ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします 左へもどします 押えを下げます きちんと下げます ボタンホール押えを取り付けます	8 8 9 14 10 30 30

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（裏表紙参照）におたずねください。

ぬい模様一覧

●基本ぬい（選び方は、12ページ参照）

ぬい目										
用途	地ぬい 左基線	地ぬい 中基線	ファスナー付け	地ぬい左 返しぬい付	ジグザグ ぬい	ふちかが りぬい	まつり ぬい	伸縮強化 （直線）	ふちかがり ぬい	ボタン ホール
押え	ジグザグ	ジグザグ	ファスナー	ジグザグ	ジグザグ サテン	ふちかがり （幅最大）	ジグザグ	ジグザグ	ふちかがり ジグザグ	ボタン ホール
参照ページ	22	22	26	22	23	24	25	23	24	30

●実用ぬい（選び方は、12ページ参照）

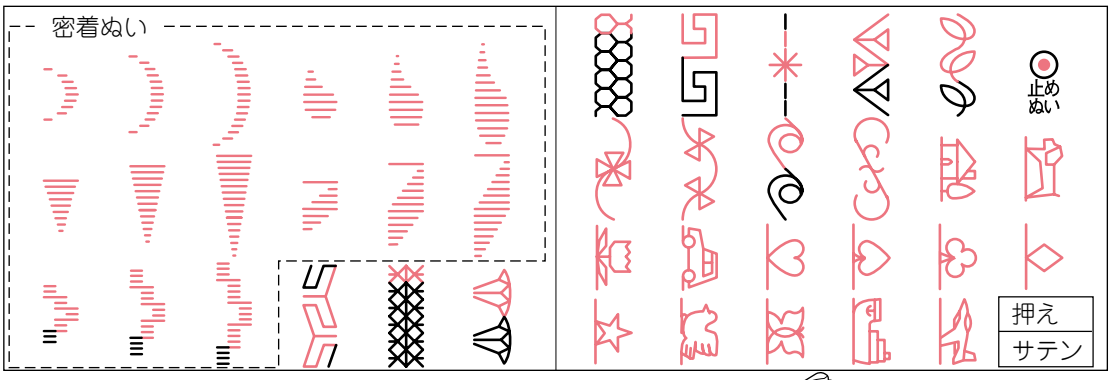
ぬい目								
用途	地ぬい中 返しぬい付	伸縮ぬい	密着ぬい	まつり ぬい	ふちかがりぬい	伸縮強化 ぬい	つくろい ぬい	ふちかが りぬい
押え	ジグザグ	ジグザグ	サテン	ジグザグ	ふちかがり ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ
参照ページ	22	22	23	25	24	23	23	24

ぬい目						
用途	パッチワーク			クロス ステッチ	かざりぬい	
押え	ジグザグ			ジグザグ サテン	ジグザグ サテン	
参照ページ	28			28	28	

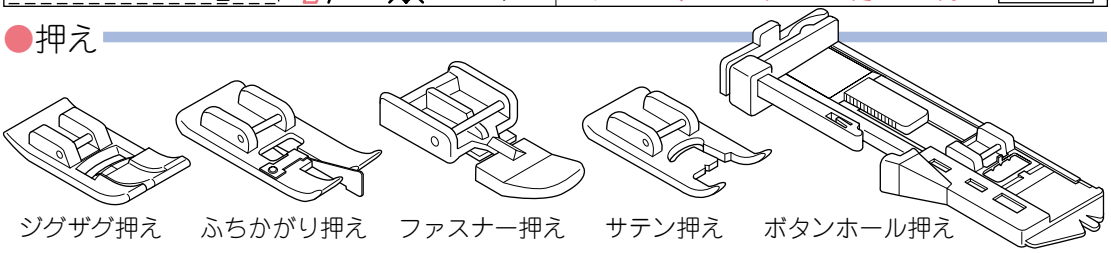
ぬい目						
用途	アップリケ	かざり ぬい	スカラップ	ボタンホール ぬい		
押え	ジグザグ サテン	ジグザグ サテン	ジグザグ サテン	ボタンホール		
参照ページ	29	28	29	30		

●模様ぬい（選び方、組み合わせ方は、32ページ参照）

赤で表示された部分が、「決定」ボタンを押したときにミシンに記憶される１単位です。



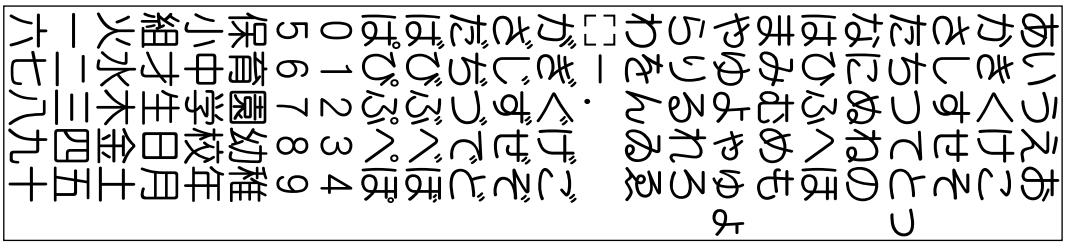
●押え



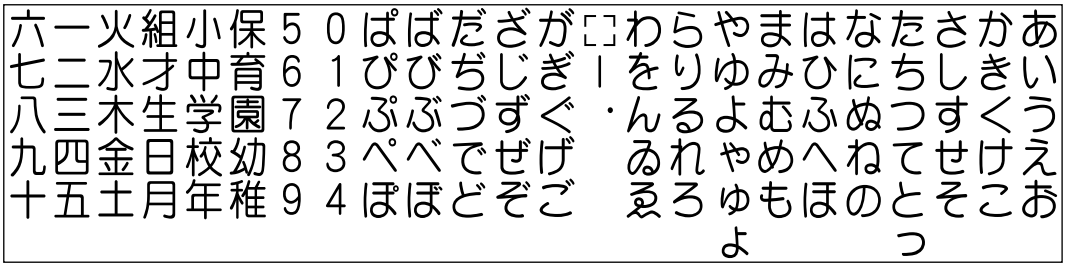
ジグザグ押え　ふちかがり押え　ファスナー押え　サテン押え　ボタンホール押え

●文字ぬい（選び方、組み合わせ方は、32ページ参照）

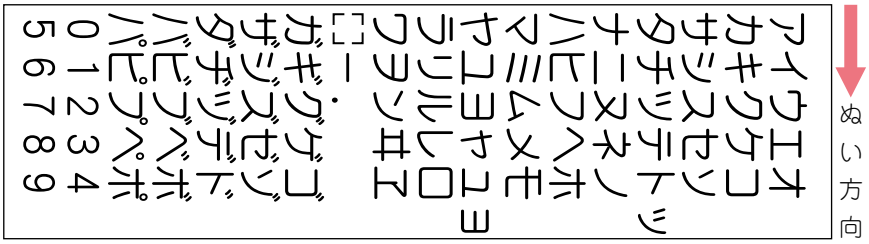
ひらがな・漢字（横書き）



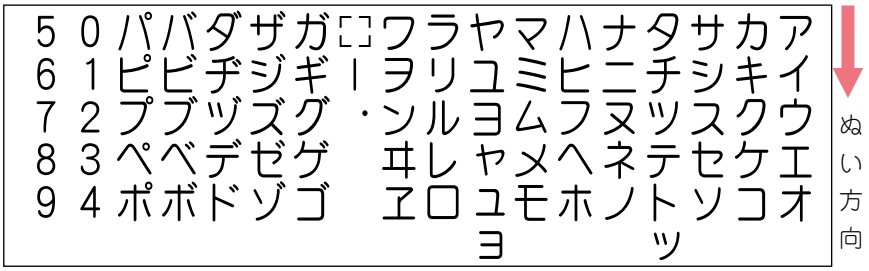
ひらがな・漢字（たて書き）



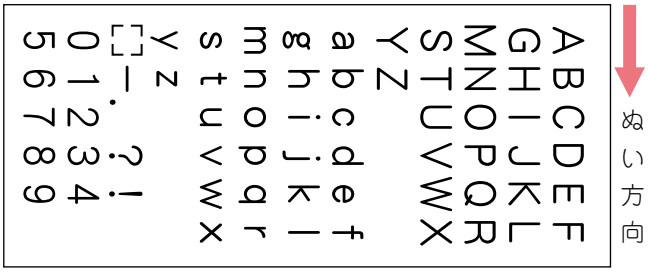
カタカナ（横書き）



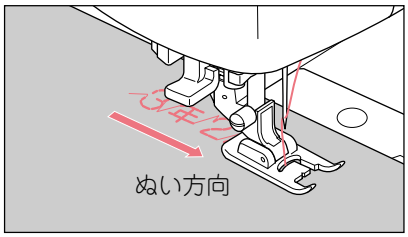
カタカナ（たて書き）



アルファベット



ひらがな・漢字、カタカナの横書きとアルファベットは、文字を横に倒した状態で、たて方向にぬい進みます。



押え
サテン

- [ ] は、1文字分あけるときに使います。（実際には、1針ぬい進むだけです。）
- ひらがな・漢字、カタカナの横書きとたて書きとでは、ぬい上がりの文字の形が少し異なります。

修理サービス要領

◎修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。
   内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

◎修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常 8 年間は、必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

◎無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用説明書に基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
   イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
   ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
   ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
   ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
   ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

150年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。修理サービスについてご不審の点がある場合には下記にお申し越ください。

お客様相談係

株式会社 シンガーハッピージャパン　電話：03-3837-1865

SINGER®
シンガーミシン

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016　東京都台東区台東 2 丁目 9 番 5 号
電話　03-3837-1865

® はTHE SINGER COMPANYの登録商標です。

33153 D3 9700SDX